

Oracle® Enterprise Data Quality for Product Data

Governance Studio リファレンス・ガイド

リリース 5.6.2

部品番号 : B66259-01

2011 年 11 月

Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Governance Studio リファレンス・ガイド, リリース 5.6.2

部品番号 : B66259-01

Copyright © 2001, 2011 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Primary Author: Lorna Vallad

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this is software or related documentation that is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

This software or hardware is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications that may create a risk of personal injury. If you use this software or hardware in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure its safe use. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software or hardware in dangerous applications.

Oracle and Java are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

Intel and Intel Xeon are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Opteron, the AMD logo, and the AMD Opteron logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark of The Open Group.

This software or hardware and documentation may provide access to or information on content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services.

目次

はじめに	v
ドキュメントのアクセシビリティについて	vi
関連ドキュメント	vi
表記規則	vii
1 概要	
Governance Studio へようこそ	1-2
利便性	1-2
柔軟性	1-2
利点	1-2
ビジネス・コミュニケーションの改善	1-2
レポートの価値の増加	1-2
効率性およびスケーラビリティの最大化	1-3
ソフトウェアの起動	1-3
クライアント・ワークスペースの理解	1-5
フレーム機能	1-6
メニュー・コマンドおよびツールバー	1-7
「File」メニュー	1-7
「Edit」メニュー	1-9
「View」メニュー	1-9
「Run」メニュー	1-10
「Tools」メニュー	1-11
「Help」メニュー	1-11
キーボード・ショートカット	1-12
タブ	1-12
標準タブ	1-12
「Source」タブ	1-12
「Graph Summary」タブ	1-13
「Data Summary」タブ	1-13
出力タブ	1-14
出力タブの作成	1-15
タブのスクロール矢印およびタブ・リストの表示ボタン	1-15
データのフィルタリング	1-16
タスク・ペイン	1-17

2 構成および管理

Governance Studio の DSA の構成	2-2
DSA の出力ステップへのアクセス	2-2
Governance Studio の出力タイプ・オプション	2-2
Governance Studio のグラフ・オプション	2-3
Governance Studio の起動	2-5
Transform Server の設定	2-5
Governance Studio プロジェクトの作成および実行	2-7
入力データの取得	2-8
Excel 入力ファイルを開く	2-8
プロジェクト・テンプレート	2-10
プロジェクト・テンプレートの作成	2-10
プロジェクト・テンプレートのオープン	2-10
結果を表示しないプロジェクトのオープン	2-11
構成オプション	2-11
「Graphs」タブ	2-12
「Tabs」タブ	2-13
「General」タブ	2-13
「Memory」タブ	2-14

3 プロジェクトの実行およびレビュー

Governance Studio プロジェクトの実行	3-2
同期的実行	3-2
非同期的実行	3-2
データの上書き実行	3-2
プロジェクト出力のレビュー	3-3
一般的な処理	3-3
セカンダリ DSA の適用	3-4
セカンダリ DSA の再実行	3-4
プロジェクトの完了	3-4
クイック参照の適用	3-5
その他の機能	3-6
ジョブ・ステータスの表示	3-6
ジョブ結果の取得	3-7
選択した行の電子メール送信	3-8
プロジェクトのエクスポートおよびインポート	3-8
プロジェクトのエクスポート	3-8
プロジェクトのインポート	3-8

4 基本タブ

「Source」タブ	4-2
「Graph Summary」タブ	4-3
「Data Summary」タブ	4-4

5 DSA 出カタブ

「Review」、「Approve」および「Route」出カタブ	5-2
出カタブの機能	5-2
行の選択	5-2
データのコピー	5-3
セルの内容の変更	5-3
「Review」、「Approve」および「Route」の AutoSuggest 出カタブ	5-4
AutoSuggest 機能	5-4
拡張の適用機能	5-5
照合結果タブ	5-6
上部ペインの機能	5-7
下部ペインの機能	5-8
照合セットの作業	5-9
見積の要求	5-9
機能的類似品の相互参照	5-9
サバイバーシップ・プロセス	5-10
Trend Analysis	5-11
Create Task from Checked Rows	5-11
View My Tasks	5-12
Changing the Task Status	5-13
Creating a Task	5-13

A クライアント・ソフトウェアのインストール

はじめに

このリファレンス・ガイドでは、Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Governance Studio の基本的な機能を説明します。

提示された拡張機能をすべて理解するには、このリファレンス・ガイドとともに、vi ページの「[関連ドキュメント](#)」に示す Oracle Enterprise Data Quality for Product Data の各ドキュメントを使用する必要があります。

このマニュアルを使用する前に、次の Oracle Enterprise Data Quality for Product Data ドキュメントをお読みください。

- Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Knowledge Studio リファレンス・ガイド
- Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Application Studio リファレンス・ガイド

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

Oracle サポートへのアクセス

Oracle のお客様は、My Oracle Support にアクセスして電子サポートを受けることができます。詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> または <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> (聴覚障害者向け) を参照してください。

関連ドキュメント

詳細は、ドキュメント・セットに含まれる次のドキュメントを参照してください。

- Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Oracle DataLens Server インストールेशन・ガイドには、Oracle DataLens Server のインストール手順の詳細が記載されています。
- Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Oracle DataLens Server 管理者ガイドには、Oracle DataLens Server のインストールと管理に関する情報が記載されています。
- Oracle Enterprise Data Quality for Product Data COM インタフェース・ガイドには、Oracle DataLens Server の COM API のインストールと使用に関する情報が記載されています。
- Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Java インタフェース・ガイドには、Oracle DataLens Server の Java API のインストールと使用に関する情報が記載されています。
- Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Application Studio リファレンス・ガイドには、Data Service Applications (DSA) の作成と保守に関する情報が記載されています。
- Oracle Enterprise Data Quality for Product Data AutoBuild リファレンス・ガイドには、既存の製品情報およびデータ・レンズ・ナレッジに基づいた初期データ・レンズの作成に関する情報が記載されています。
- Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Knowledge Studio リファレンス・ガイドには、データ・レンズの作成と保守に関する情報が記載されています。
- Oracle Enterprise Data Quality for Product Data 用語集には、Enterprise DQ for Product テクノロジーで一般的に使用する用語の定義が記載されています。
- Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Services for Excel リファレンス・ガイドには、Microsoft Excel スプレッドシートに含まれるデータに基づいた DSA の作成に関する情報が記載されています。
- Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Task Manager リファレンス・ガイドには、Task Manager または Governance Studio アプリケーションで作成されたタスクの管理に関する情報が記載されています。

このドキュメントおよびすべての関連ドキュメントの最新版は、次に示す Oracle Enterprise Data Quality for Product Data ドキュメントの Web サイトから入手できます。

http://download.oracle.com/docs/cd/E20593_01/index.htm

表記規則

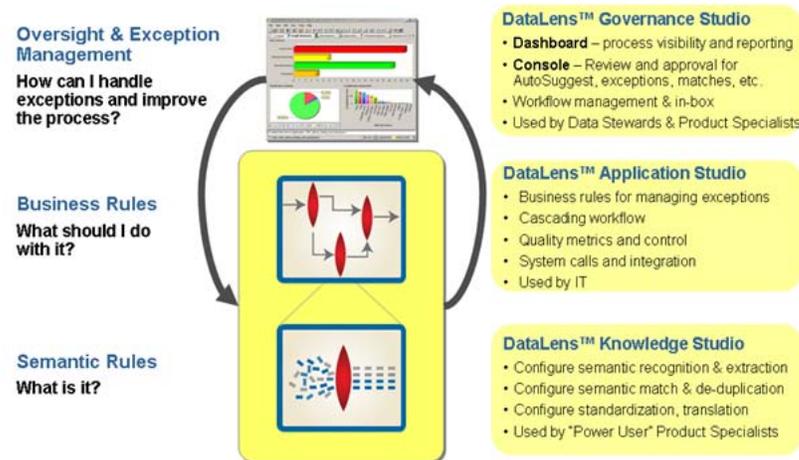
このマニュアルでは、次の表記規則を使用します。

規則	意味
太字	太字は、操作に関連する Graphical User Interface 要素、または本文中で定義されている用語および用語集に記載されている用語を示します。
イタリック体	イタリックは、マニュアルのタイトル、強調、またはユーザーが特定の値を指定するプレースホルダ変数を示します。
固定幅フォント	固定幅フォントは、段落内のコマンド、URL、サンプル内のコード、画面に表示されるテキスト、入力するテキスト、ファイル、ディレクトリまたはパス名を示します。
固定幅フォント	太字の固定幅フォントは、入力するコマンドまたはテキストを示します。

概要

Oracle DataLens Server は、様々なソースおよびシステムの製品データを標準化、照合、補完および修正する業界最先端の DataLens™ テクノロジーを基に構築されています。DataLens の中核テクノロジーには、製品データ特有の極端な多様性を処理するために、一から設計された特許取得済セマンティック・テクノロジーが使用されています。

Oracle Enterprise Data Quality for Product Data (以前の Oracle Product Data Quality) には、DataLens の中核テクノロジー・モジュールである Governance Studio、Knowledge Studio および Application Studio が使用されます。次の図は、これらのモジュールのプロセス・フローを示しています。



Enterprise DQ for Product (EDQP) Governance Studio は、レポート化およびグラフ化のアプリケーションで、Application Studio の Data Service Applications (DSA) のジョブ実行結果の分析を合理化します。Governance Studio プロジェクトを作成すると、データ品質のレポート作成、変換済データの分析、同僚へのレコードの電子メール送付、およびファイルへの結果の出力などを行うことができます。Governance Studio の AutoSuggest 機能を使用すると、ボタンをクリックするだけで、欠落している属性を識別できます。

Governance Studio へようこそ

Governance Studio は、データ解析のニーズに合った分析ツールを設計するための柔軟なフレームワークを提供します。このツール（プロジェクト）は、入力データの処理用に設計した DSA に全面的に依存し、最低 1 つのテキスト出力があります。

このガイドでは、Governance Studio が提供する特性および機能について説明し、ユーザーがプロジェクトを構築するための使用例を示します。これらの例は、Governance Studio の機能を示すための一連の使用事例に基づいています。Governance Studio のジョブは基礎となる DSA を反映するため、個別のプロジェクトの様々なニーズにあわせて多様なジョブを作成することが可能です。

利便性

Governance Studio は、ジョブの起動、プロセス管理、結果のレポート、および Application Studio のジョブからの出力分析、さらにすべての作成済出力データの分析を実行するための簡便で使いやすいインターフェースを用意しています。ジョブを同期的または非同期的にスケジュール設定して実行したり、レポートを生成したり、傾向分析を実行したり、欠落している属性を容易に識別して差異を同僚にレポートできます。

柔軟性

Governance Studio の柔軟でユーザーフレンドリなインターフェースを使用して、次のことを実行できます。

- DSA の実行
- DSA 結果の出力
- DSA 結果の操作
- AutoSuggest を使用した属性の自動推奨
- 出力データの保存

利点

次の各項で、Governance Studio の利点を説明します。

ビジネス・コミュニケーションの改善

データ・レンズ・レポートは、事業目標を達成する手助けとなります。データ・レンズを使用して次のことができます。

- 価値と利益（投資利益率）を迅速に、効果的に示すことができます。
- 結果を視覚化し、容易に点を繋いで全体像を見せることができます。

レポートの価値の増加

Governance Studio を使用すると、データの質を反映する高品質なグラフィック・イメージを使用して、非常に効果的なレポートをリアル・タイムで提示できます。また、効果的なダウンストリーム処理またはデータに関する通信を実現するために、ユーザーが自らパラメータのセットを定義できます。

Governance Studio は、DSA テンプレートの出力結果を視覚的に表現し、ビジネス・プロセスと 1 対 1 で対応するよう DSA テンプレートを作成して利用できます。次のようなことができます。

- 汎用製品データ評価
- 属性の抽出
- 既存およびレガシー・データ・ソース間でのデータ・レコードの照合
- 検索基準に基づいた代替案の提示

効率性およびスケーラビリティの最大化

Governance Studio では、Java Web Start を活用することにより、次のことが可能になります。

- Web ページのリンクからの Governance Studio アプリケーションの起動
- 現行バージョンへのソフトウェアの自動更新
- Windows または Linux オペレーティング・システム (OS) とのシームレスな統合
- DSA データベース・インタフェースの利用

ソフトウェアの起動

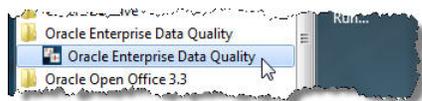
Enterprise DQ for Product を起動するには、次のようにして、デスクトップのショートカットを使用するか、または Windows の「スタート」メニューを使用します。

注意： Enterprise DQ for Product がインストールされていない場合は、72 ページの「クライアントのインストール」の手順に従ってインストールします。

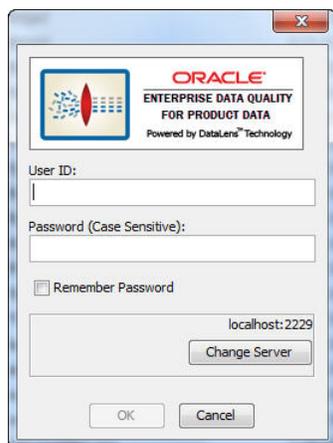
- デスクトップのショートカットをダブルクリックします。



- 「スタート」、「プログラム」、「Oracle Enterprise Data Quality for Product Data」をクリックし、「Oracle Enterprise Data Quality for Product Data」を選択します。

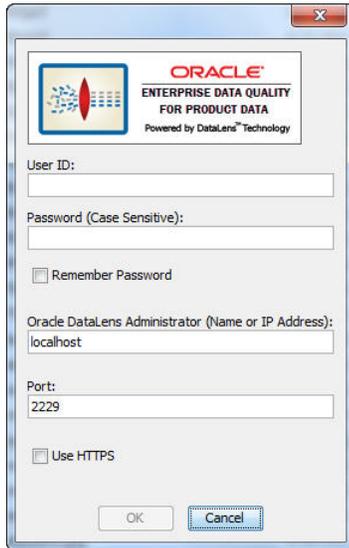


「Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Login」ダイアログ・ボックスが表示されます。



ユーザー名およびパスワードを入力します。「Remember Password」チェック・ボックスを選択すると、ログインするたびにパスワードを入力せずに済みます。

Oracle DataLens Server を変更するか、HTTP Secure (HTTPS) を使用する場合は、「**Change Server**」をクリックします。HTTPS オプションは、アプリケーション・サーバーとして WebLogic を使用する Oracle DataLens Server で実行する場合のみ動作保証されています。



Oracle DataLens Server を変更するには、Oracle DataLens Administration Server のホスト名または IP アドレスとそのポート番号を入力します。

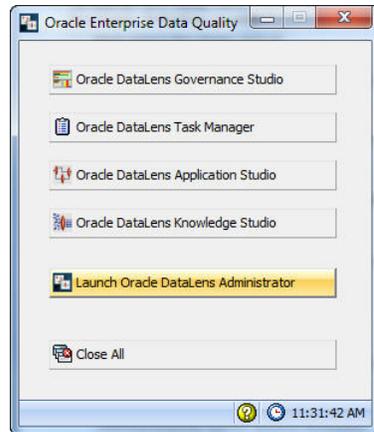
注意： Oracle DataLens Server が WebLogic アプリケーション・サーバーを使用している場合、このポート番号は、WebLogic ドメイン・サーバーのポート番号と一致している必要があります。

HTTPS を使用して Oracle DataLens Server に接続するには、「**Use HTTPS**」チェック・ボックスを選択します。

注意： Oracle DataLens Server (および EDQP トポロジ内の他のすべてのサーバー) が HTTPS を使用するよう構成されている必要があります。HTTPS の構成および使用方法の詳細は、Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Oracle DataLens Server 管理者ガイドを参照してください。

すべての情報が正しければ、「**OK**」をクリックします。

Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Launch Pad が表示されます。

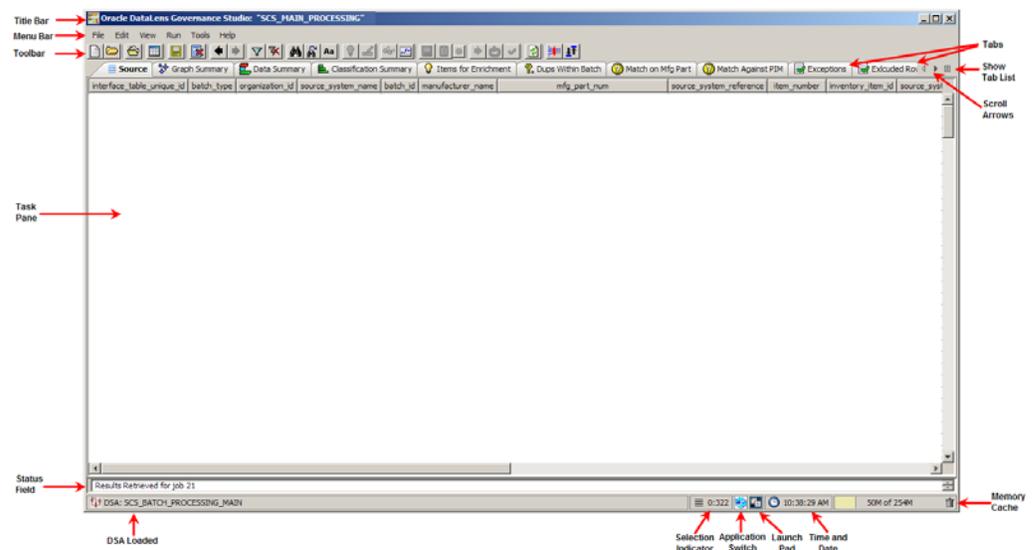


Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Launch Pad を使用すると、ボタンをクリックすることによって、いずれかの Oracle DataLens Server アプリケーションをすばやく起動できます。「Close All」ボタンを使用すると、オープンしているすべての Enterprise DQ for Product アプリケーションをクローズすることができます。

アプリケーションを起動するには、「Oracle DataLens Governance Studio」ボタンをクリックします。

クライアント・ワークスペースの理解

Governance Studio の Graphical User Interface (GUI) では、データ・レンズの作成および管理に使用するクライアント・ワークスペースが提供されます。



この項では、クライアント・ワークスペースの次の分野について説明します。

- 1-6 ページの「フレーム機能」
- 1-7 ページの「メニュー・コマンドおよびツールバー」
- 1-12 ページの「タブ」
- 1-17 ページの「タスク・ペイン」

フレーム機能

Governance Studio のクライアント・ワークスペース・フレームには、次のような有用な情報および対話機能が含まれています。

タイトル・バー

現在のアプリケーションおよびオープンしているプロジェクトを示します。

ステータス・フィールド

プロジェクトのステータスを 1 行ずつ示します。このフィールドのサイズは変更できませんが、右側にあるスクロール矢印を使用すると、使用可能なステータス情報をすべて表示できます。ステータス・データは選択したタブに基づいて変わることはなく、すべてのデータを編集したものです。

ロードされている DSA

プロジェクト・データの変換に使用されている、現在ロード中の DSA を示します。

選択インジケータ

現在選択中の行数と、選択可能な行の合計数を示します。

アプリケーション・スイッチ

前回使用した Enterprise DQ for Product アプリケーションに戻ります。

Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Launch Pad

このボタンを使用すると、Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Launch Pad が開き、他のアプリケーションを選択できます。

時間と日付

このフィールドにカーソルを合せると時間が表示されます。

メモリー・キャッシュ

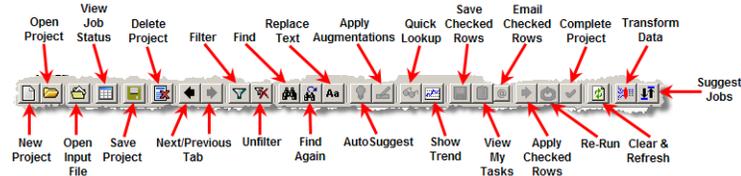
現在使用されているメモリー・キャッシュの量、および使用可能な合計量を示します。この対話フィールドのゴミ箱アイコンをクリックすると、メモリー・キャッシュをダンプできます。

注意： この機能はシステム診断用にもみ使用し、Oracle サポートから要求されないかぎり使用しないでください。

メニュー・コマンドおよびツールバー

Governance Studio のメニューおよびツールバーを使用すると、最も頻繁に使用する Governance Studio の機能に簡単にアクセスできます。ツールバー・ボタンのセットは、UI 操作時は同じままですが、インタフェースの現在の状態および設定したオプションによって使用可能または使用不可になります。グレー・スケールで表示されるボタンは使用不可です。色付きで表示されているボタンは使用可能です。ツールバー・ボタンはすべて標準のプッシュ・ボタンで、マウスを1回クリックするとアクティブ化されます。

次に、ツールバーのボタンを左から右に簡単に説明します。



Governance Studio の GUI メニューから、ほとんどの機能にアクセスできます。ツールバーのすべてのボタンには対応するメニュー・コマンドがあり、各メニューでは、コマンドの横に表示されるボタン・アイコンとして示されます。メニュー・コマンドのセットは、GUI 操作時は同じままです。

メニュー・コマンドは、データ・レンズの現在の状態に基づいて使用可能または使用不可になり、グレー表示されたコマンドは使用できません。一部のメニュー・コマンドはより複雑な機能を実行し、省略記号 (...) で示されます。これらのコマンドでは、要求された機能の完了に必要な情報を収集するダイアログ・ボックスが開きます。機能を切り替えるメニュー・コマンドの前には、チェック・マーク (・j) が付きます。

ヒント: マウス・ポインタをメニュー項目、ボタン、タブ、アイコンまたは同様のコンテンツにあわせると、ツールヒントが表示されます。

次の項では、各 Governance Studio メニュー・コマンドと対応するボタンについて簡単に説明します。

「File」メニュー

New Project

エンタープライズ・データに関するレポートを作成するための新規 Governance Studio プロジェクトを作成します。これらのプロジェクト・ファイルは、次のいずれかのディレクトリに格納されます。

C:\¥Documents and Settings¥Username¥Applications¥DataLens¥data¥project

または

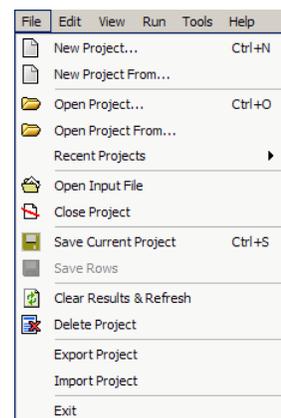
C:\¥Users¥Username¥AppData¥DataLens¥export

New Project From...

既存のプロジェクト・ファイルを基礎として使用して新規プロジェクトを作成し、オープンしているプロジェクトがあればクローズします。

Open Project

既存のプロジェクト・ファイルを開き、オープンしているプロジェクト・ファイルがあればクローズします。



Open Project From...

既存のプロジェクト・ファイルを開き、同じベース・プロジェクト名に一意的接尾辞（V2 など）を追加して名前を変更できます。

Open Project - No Results

既存のプロジェクト・ファイルを開きますが、データ処理の結果を「Output」タブに表示しません。この機能を使用すると、最大メモリー割当てを超過したために以前オープンできなかったプロジェクトをオープンできます。詳細は、2-11 ページの「結果を表示しないプロジェクトのオープン」を参照してください。

Recent Projects

最近オープンしたプロジェクトのリストが表示されるので、プロジェクトをすばやく選択してオープンできます。

Open Input File

現在のプロジェクトのデータ・ファイルを選択できます。詳細は、2-8 ページの「入力データの取得」を参照してください。

Close Project

オープンしているプロジェクト・ファイルをクローズします。

Save Current Project

すべてのプロジェクトの変更をディスクに保存します。

Save Rows

保存するのはチェック済みの行のみで、選択した行を保存するわけではありません。チェック済みの行は、プロジェクトが常駐するデータレンズ・ディレクトリに Microsoft Excel スプレッドシートとして自動的に保存されます。ファイル名は、タブの名前に基づき、プロジェクトが常駐するデータレンズ・ディレクトリに保存されます。表示されるダイアログでファイル名または保存場所を変更できます。すべてのファイルは、.xls 拡張子を付加して保存されます。

Clear Results & Refresh

変更済みの DSA をソース・データにリフレッシュまたは再マッピングして、DSA のすべての変更を確実に現在のプロジェクトに反映させます。

プロジェクトをオープンしてリフレッシュしなかった場合、一貫性を確保するためにリフレッシュするよう、Governance Studio によってプロンプトが表示されます。

Delete Project

オープンしているプロジェクトを削除します。このプロジェクトは編集できなくなります。プロジェクトを編集できなくても、「New Project From...」オプションを使用して新規プロジェクトを作成するためのモデルに使用できます。

Export Project

プロジェクトをエクスポートします。詳細は、3-8 ページの「プロジェクトのエクスポートおよびインポート」を参照してください。

Import Project

プロジェクトをインポートします。詳細は、3-8 ページの「プロジェクトのエクスポートおよびインポート」を参照してください。

Exit

Governance Studio アプリケーションを終了します。変更がある場合は保存するよう、プロンプトが表示されます。

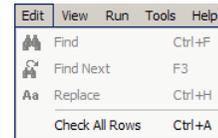
「Edit」メニュー

Find

検索文字列を正規表現を使用して指定して、検索を実行できます。

Find Next

「Find」操作で定義した前回の検索を繰り返します。



Replace

検索文字列および置換文字列を指定し、「Source」タブからテキストを置換します。

Check All Rows

アクティブなタブの表のすべての行を選択します。選択されたタブにチェック・マーク列がある表が含まれている場合のみ、アクティブです。

「View」メニュー

View Job Status

すべてのジョブのステータスを表示できます。

View My Tasks

実行をスケジュールしたタスクまたは実行したタスクを表示できます。詳細は、5-12 ページの「View My Tasks」を参照してください。

Filter

テキストまたはテキスト・パターンに基づいて、表示されているデータをフィルタリングできます。フィルタ操作は、現在選択中のタブのみに適用できます。「Filter」ダイアログに入力されたテキストに一致する行のみが表に表示されます。

Un-Filter

選択中のタブに適用されたフィルタを削除し、すべてのデータを表示します。

View Statistics

選択内容に関する統計情報を表示します。詳細は、5-6 ページの「照合結果タブ」を参照してください。

View Information

プロジェクト名、Transform Server、DSA 名、およびデータ・ファイルの場所を含む情報メッセージが表示されます。

Previous / Next

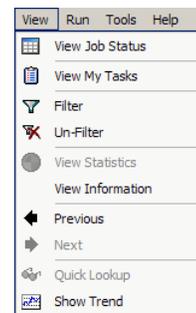
矢印ボタンを使用して、行アイテムの代替定義を表示できます。選択されているタブにより、動作が異なります。

Quick Lookup

N グラムの照合結果をすばやく探し、表示できます。関連付けられた DSA に N グラム照合が含まれていない場合、このオプションは非アクティブです。詳細は、3-5 ページの「クイック参照の適用」を参照してください。

Show Trend

出力データのグラフィカルな傾向分析を表示します。詳細は、5-11 ページの「Trend Analysis」を参照してください。



「Run」メニュー

Transform Data

出力データをリアルタイムで処理します。詳細は、3-2 ページの「[Governance Studio プロジェクトの実行](#)」を参照してください。

Transform Data with Overrides

DSA での構成設定を上書きする設定を実行時に指定して、出力データを処理できます。「Ngram Match」または「Attribute Match 2」（「Semantic Key 2」に関連付けられている）処理のしきい値およびあいまい一致設定を上書きできます。関連付けられた DSA にこれらの照合プロセスが含まれていない場合、このオプションは非アクティブです。

Submit Job

出力データをバックグラウンドで処理します。詳細は、3-2 ページの「[Governance Studio プロジェクトの実行](#)」を参照してください。

Create Task from Checked Rows

選択内容を使用して新規ジョブを作成します。詳細は、5-11 ページの「[Create Task from Checked Rows](#)」を参照してください。

Email Checked Rows

選択されている行を電子メールで送信します。詳細は、3-8 ページの「[選択した行の電子メール送信](#)」を参照してください。

Apply Checked Rows

選択した行の出力データを処理します。詳細は、3-3 ページの「[一般的な処理](#)」を参照してください。

Re-Run Checked Rows

選択した行の出力データを再度処理します。詳細は、3-3 ページの「[一般的な処理](#)」を参照してください。

Complete Project

プロジェクトをクローズ・アウトします。詳細は、3-4 ページの「[プロジェクトの完了](#)」を参照してください。

AutoSuggest

Governance Studio からデータ処理の推奨を取得します。詳細は、5-4 ページの「[AutoSuggest 機能](#)」を参照してください。

Apply Augmentations

ロードされている DSA にナレッジを追加するか拡張させます。詳細は、5-5 ページの「[拡張の適用機能](#)」を参照してください。

Run	Tools	Help
	Transform Data	Ctrl+R
	Transform Data with Overrides	
	Submit Job	
	Create Task from Checked Rows	Ctrl+T
	Email Checked Rows	Ctrl+E
	Apply Checked Rows	Ctrl+Y
	Re-run Checked Rows	
	Complete Project	
	AutoSuggest	
	Apply Augmentations	

「Tools」メニュー

Open Oracle DataLens Task Manager...

EDQP Task Manager を起動します。Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Task Manager リファレンス・ガイドを参照してください。

Open Oracle DataLens Application Studio...

EDQP Application Studio を起動します。Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Application Studio リファレンス・ガイドを参照してください。

Open Oracle DataLens Knowledge Studio...

EDQP Knowledge Studio を起動します。Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Knowledge Studio リファレンス・ガイドを参照してください。

Open Oracle Enterprise Data Quality for Product Data...

Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Launch Pad を起動します。

Set Transform Server

データの変換に使用する Oracle DataLens Server を識別します。詳細は、2-5 ページの「[Transform Server の設定](#)」を参照してください。

Project Options

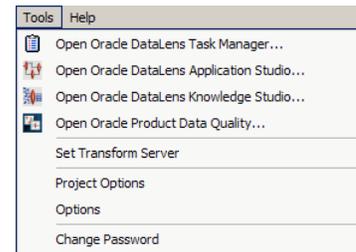
オープンしているプロジェクトのオプションを設定できます。詳細は、2-11 ページの「[構成オプション](#)」を参照してください。

Options

Governance Studio でグローバルに使用するオプションを設定できます。詳細は、2-11 ページの「[構成オプション](#)」を参照してください。

Change Password

EDQP のパスワードを変更できます。



「Help」メニュー

Product Guide

選択用の Enterprise DQ for Product ドキュメント・リストをブラウザで開きます。

Help About

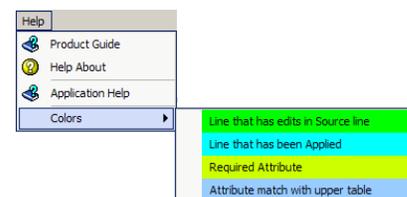
バージョン番号などの製品に関する情報や、サード・パーティ製品のライセンスを表示するリンクを表示します。

Application Help

Governance Studio のオンライン・ヘルプをブラウザで開きます。

Colors

Governance Studio で使用されているデータ表の色を説明します。



キーボード・ショートカット

次の表に、Governance Studio の使用を容易にするキーボード・ショートカットを示します。

機能	ショートカット・キー
新規プロジェクト	[Ctrl]+[N]
プロジェクトのオープン	[Ctrl]+[O]
プロジェクトの保存	[Ctrl]+[S]
元に戻す	[Ctrl]+[Z]
検索	[Ctrl]+[F]
次を検索	[F3]
置換	[Ctrl]+[H]
すべての行を選択	[Ctrl]+[A]
データの変換	[Ctrl]+[R]
選択されている行からタスクを作成	[Ctrl]+[T]
行を電子メールで送信	[Ctrl]+[E]
選択された行に適用	[Ctrl]+[Y]

タブ

タブは、関連する情報を読みやすく、アクセスしやすい領域にグループ化します。タブにはグラフ、ペインおよびテキスト入力ボックスなどが表示されます。タブはツールバーのすぐ下のクライアント・ワークスペースに表示され、任意の順序でアクティブ化できます。いつでもすべてのタブが有効なわけではありません。たとえば、新規 Governance Studio プロジェクトを作成すると、出力がまだ生成されていないため、出力タブはアクティブではありません。

標準タブ

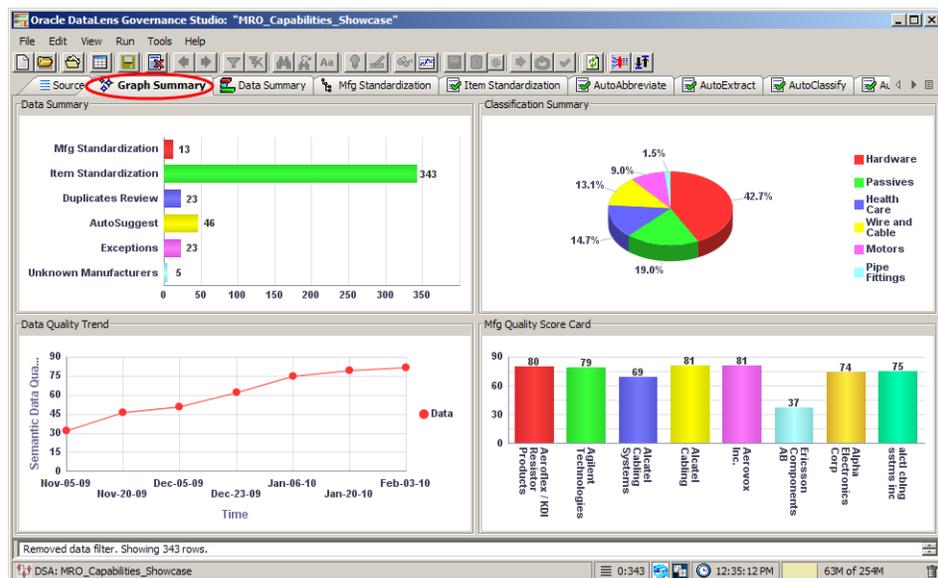
標準データ・タブは、プロジェクトの品質および生産性メトリック全体を表示します。グラフィカルな出力タブは様々な構成が可能で、バーをダブルクリックすると、その基礎となる出力に移動できます。これらのタブを使用して、様々な領域の業務目標を達成できます。

- ソースごとのデータ品質管理
 - データ・ソースの品質の決定
 - ソースのクローズドループ管理の許可
- プロセスの有効性の監視
 - プロセスの起動頻度および成功頻度の判断
 - プロセスの改善機会の識別
- ユーザーによる作業キューの可視性および生産性メトリックの評価

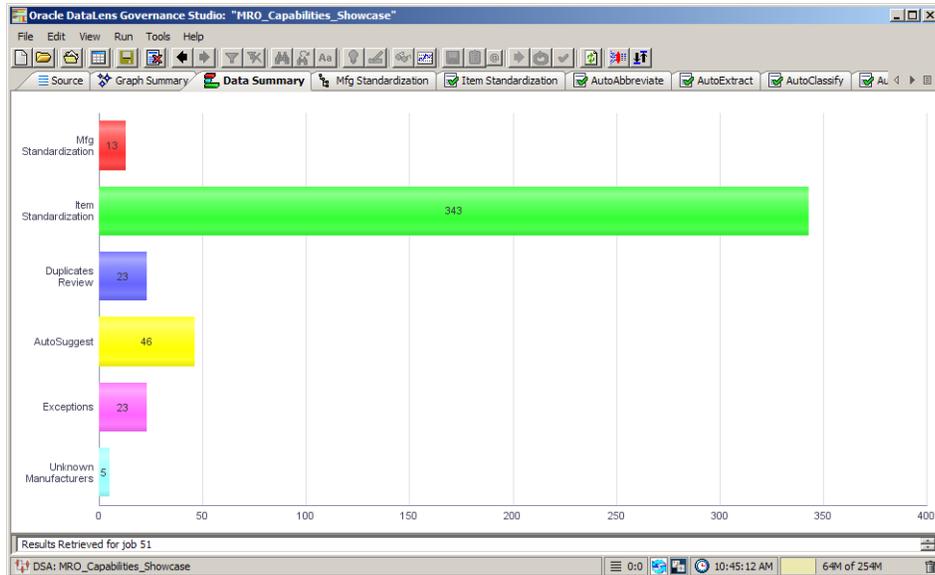
「Source」タブ 「Source」タブは、Governance Studio プロジェクトが、入力ファイルのロードまたは手動入力を基礎としている場合に作成されます。プロジェクトが外部ファイルを指定している場合、基礎となる DSA がデータベース入力に基づいている場合、またはプロジェクトがスケジュール設定済のジョブに接続している場合は、「Source」タブは表示されません。

id	part_number	description	manufacturer	Source
500140	502141	0.75MM/3C CONTROLFLEX CY 300/500V GREY IEC332-3C F2 COMPLIANT	Renesas Technology Corp	Legacy-1
500145	502134	0.75MM/5C CONTROLFLEX YY PCU/LSZH/LSZH GREY 300/500V NOD 1-4 + GRN/YLLW	Fenghua Advanced Technology Co Ltd	ERP-2
500150	502235	0.75MM/SPR B55308 PT1 TYPE 2 PCU/PE/COLL SCRNL/SF/SWA/LSF BLK 24J0.2MM	Broadband TelCom Power Inc	3rd Party-3
500155	500245	0-80 X 3/16 CLIP PT SOC SET SCR 18-8 SS	IXYS Corp	Legacy-1
500160	500784	0-80X1 18-8SS SOCKET HEAD CAP SCREWS	Solid State Electronics	ERP-2
500165	500554	1 1/4-7X5 1/2 Hx Hd Cap Screw-Gr 5 Zinc Pl	ST-Semiconductors of Indiana Inc	3rd Party-3
500170	500599	1 1/8-12X4 HX HD Cap Scr-Gr 8 Zinc Pl(LE)	Alpha Electronics Corp	Legacy-1
500175	502182	1.5MM/1C 6701B FLEXIBLE BLACK 450/750V B57211 LOW SMOKE HCL 0.5% MAX	ST-Semiconductors of Indiana Inc	ERP-2
500180	502106	1.5MM/25C CONTROLFLEX YY 300/500V GREY IEC332-3C F2 COMPLIANT	Semi Elements Inc	3rd Party-3
500185	502215	1.5MM/2C CONTROLFLEX YY PCU/PVC PVC GREY 300/500V CORES NOD 1-2	Manutech Inc	Legacy-1
500190	502218	1.5MM/2PR B55308 PT1 TYPE 2 IND AND COLL SCREEN BLUE RP15 7J0.53MM BLU/BLK PRS	Seagate Microelectronics LTD	ERP-2
500195	502148	1.5MM/5C CONTROLFLEX SY PCU/PVC PVC/GSHB/PVC 300/500V GENLEC COLOUR CORES	Microwave Diode Corp	3rd Party-3
500200	502217	1.5MM/5C CONTROLFLEX YY PCU/PVC PVC GREY 300/500V NOD 1-4 + GRN/YLLW	Newport Components Ltd	Legacy-1
500205	502197	1.5MM/SPR B55308 PT1 TYPE 2 COLL SCREEN BLACK RP15 7J0.53MM	Elpida Memory Inc.	ERP-2
500210	502231	1.5MM/SPR B55308 PT1 TYPE 2 PM73479 PCU/PE/COLL SCRNL/SF/SWA/LSF BLK 7J0.53MM	Totton Sanyo Electric Co LTD	3rd Party-3
500215	502223	1.5MM/6C B55308 PT1 T2 PM73479 PCU/PE/COLL SCRNL/SF/SWA/LSF BLK D63 7J0.53MM	Amex Electronics Inc	Legacy-1
500220	502220	1.5MM/8C CONTROLFLEX YY PCU/PVC PVC GREY 300/500V NOD 1-7 + GRN/YLLW	Teledyne Cougar	ERP-2
500225	500183	1/2-13 X 1" A193 B7 HEAVY HEX BOLT	Crystek Crystals Corp	3rd Party-3
500235	500803	1/2-13 X 16 NON-STD ALLY SCKT CAP SCR	Teledyne Cougar	Legacy-1
500240	500467	1/2-13 X 3/4 FLAT PT Soc Set Scr Alloy St-HK	Semi Elements Inc	ERP-2
500245	500370	1/2-13X1 GR2 GALV HEX HEAD BOLT	Ducati Energia Spa	3rd Party-3
500250	500313	1/2-13X1" SERRATED HEX FLANGE BOLT	LXD Inc	Legacy-1
500255	500566	1/2-13X14 Sq Hd Bolt Gr 2	Seaward Electronics Inc	ERP-2
500260	500820	1/2-13X2 1/2 HOKROME SOCKET HEAD CAP SCREW USA	Agilent Technologies	3rd Party-3
500265	500534	1/2-13X2 3/4 FH SI MACHINE SCREW ZINC PL	Semi Elements Inc	Legacy-1
500270	500556	1/2-13X4 1/2 Hx Hd Full Thrd Cap Scr Gr 2	Lapp USA	ERP-2
500275	500283	1/2-13X4.50 W/NYL PTCH ALLOY SKT HD CAP SCR W	Taiyo Yuden Inc	3rd Party-3

「Graph Summary」タブ「Graph Summary」タブには、グラフィック出力対象として DSA で構成されている「Transformed Data」タブの要約が表示されます。表示するグラフが 2 つ以上ある場合、このタブが作成されます。



「Data Summary」タブ「Data Summary」タブには、それぞれの「Transformed Data」タブに関連付けられている変換済の行数のグラフが表示されます。



出カタブ

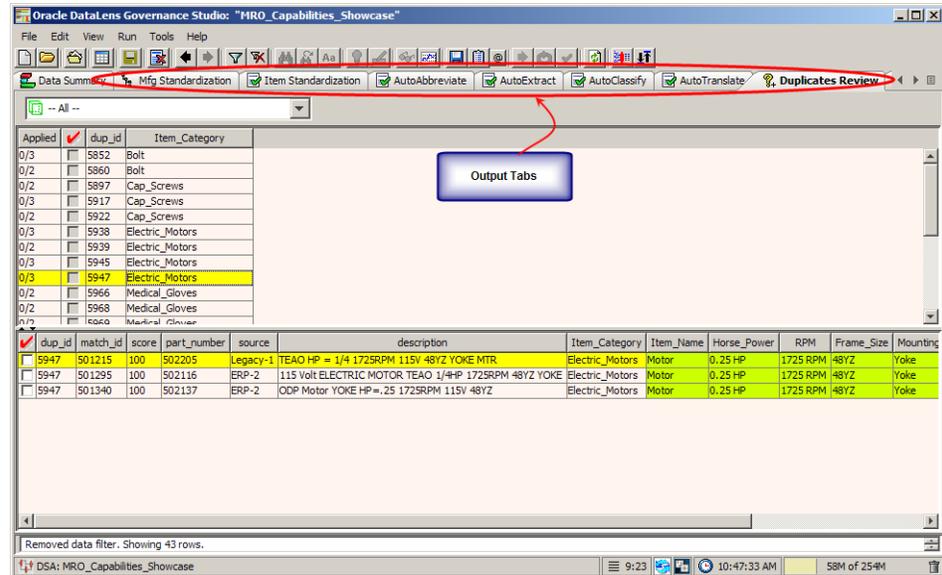
出カタブから、品目レベルの検証、承認、編集およびルーティングを実行できます。出力は、最上部ペインに単一の表として表示されます。

Governance Studio の出カタブには数種類あります。それぞれのタイプには、作成を管理する異なるルールや、各タブに表示される出力で実行可能なアクションを指定する様々なプロパティがあります。Governance Studio の出カタブは、Data Service Application の出力ステップに対応します。

出カタブには、次のものを含むすべての例外プロセスについて、タスク固有のユーザー・インタフェース (UI) があります。

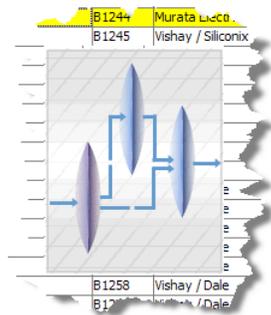
- 解析結果のレビューおよび承認
- 一致候補のレビューおよび承認
- 低品質項目の異なるワークフローやプロセスへの再割当て
- 低品質項目の編集や更新の指示
- プロセスの整合性および効率性を保持しながら手動介入を許可

次に照合選択プロセスの例を示します。行を選択すると、照合結果について、下部ペインに親子関係ビューが表示されます。このような分割画面のタスク・ペインにより、使いやすい対話型コンソールで、重複、一致および機能的等価のレビュー、承認または拒否に関連するタスクを実行できます。



出カタブの作成 新規プロジェクトの場合、最初は出カタブは Governance Studio プロジェクトに表示されません。「Source」タブのデータを「Transform」ボタンを使用して変換すると、出カタブが表示されます。データの変換中またはデータベース間合せからのソース・データの取得中は、タブ中央の「Job-In-Progress」アイコンによって実行が進行中であることが示されます。

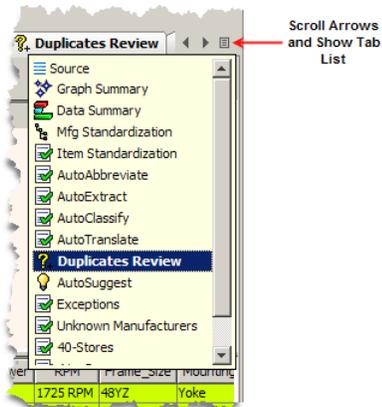
既存のジョブの場合、ジョブを実行するたびに出カタブが再作成されます。



出カタブがすでに存在する場合、Governance Studio によって新規データの列ヘッダーがすべての既存出カタブのデータの列ヘッダーと比較されます。データの一致が検出された場合（列が同一である場合）、既存の出カタブが使用されます。そうでない場合は、Governance Studio によって不一致のエラー・メッセージが表示されますが、関連する出カタブが自動的に作成されます。

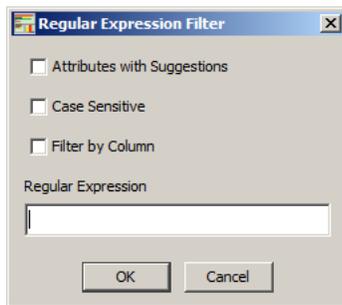
タブのスクロール矢印およびタブ・リストの表示ボタン

プロジェクト・データを変換した後、DSA の出力ステップで Governance Studio の出力を指定しているかどうかにより、1 つ以上の出力タブが表示されます。Governance Studio コンソールの出力タブが 1 ページに収まらない場合は、右にある左向きおよび右向きの「Scroll Arrows」をクリックして、左右にスクロールできます。また、次の図にあるような「Show Tab List」ボタンをクリックして出力タブのリストを表示し、個別に選択できます。



データのフィルタリング

Governance Studio の表が含まれているタブでは、特定の情報を表示するためにフィルタリングし、表に表示する行数を削減できます。表をフィルタリングするには、ツールバーの「Filter」ボタンをクリックするか、「View」メニューから「Filter」を選択します。

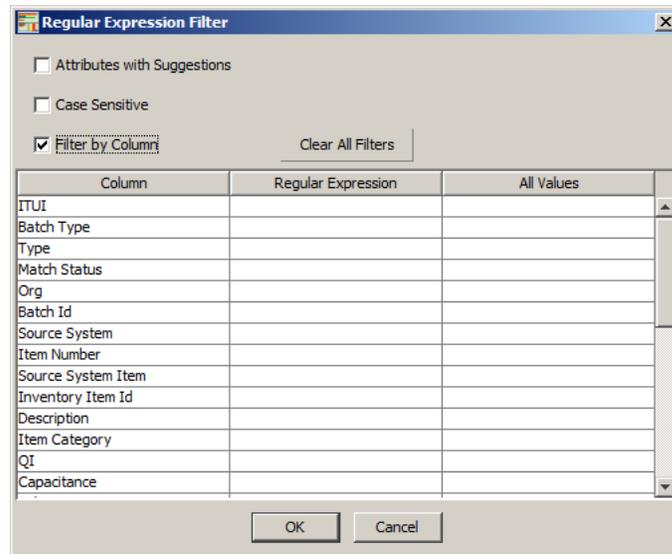


選択されているタブが AutoSuggest タブの場合、「Attributes with Suggestions」チェック・ボックスがアクティブになり（5-4 ページの「AutoSuggest 機能」を参照）、推奨されたデータを使用して検索できます。

フィルタリングするデータに大 / 小文字の区別がある場合、適切にフィルタリングされるよう「Case Sensitive」チェック・ボックスを選択します。

データのフィルタリングに使用する正規表現またはテキスト文字列を入力します。

それぞれのデータの列をフィルタリングするには、「Filter by Column」チェック・ボックスを選択します。



選択中のタブのそれぞれの列が表示されます。1つ以上の列について正規表現を入力するか、「**All Values**」列をクリックして、自動移入されたリストからフィルタ値を選択します。「**Regular Expression**」および「**All Values**」列は相互に排他的なので、一方の列に入力または選択すると、もう一方の列がリセットされます。「**All Values**」列にリスト表示される値は、現在表に表示されている値から導出されるため、繰り返しフィルタリングを実行すると選択内容が徐々に狭まります。これにより、表示内容に基づいてフィルタリングの精度を上げられます。フィルタリングしようとしている値が表示されない場合は、データのフィルタリングを解除し、再度フィルタリングを実行します。

「**Clear All Filters**」をクリックすると、すばやくすべてのフィルタ・エントリをクリアできます。個別のフィルタ・エントリを削除するには、エントリを選択して [**Delete**] キーを押します。

フィルタがアクティブなときは「**Filter**」ボタンが緑色になるため、表示されていないすべてのデータを簡単に識別できます。ツールバーの「**Un-Filter**」ボタンを使用するか、「**View**」メニューから「**Un-Filter**」を選択してフィルタを削除すると、すべてのデータが表示されます。

タスク・ペイン

Governance Studio には2つの対話型タスク・ペインがあります。「**Governance Console**」では、データが Microsoft Excel スプレッドシートと同様の表形式で表示され、「**Governance Dashboard**」には出力データをグラフ表示したものが表示されます。

左側にあるペインの間の小さい上矢印と下矢印を使用すると、ペインのサイズを変更できます。さらに、矢印をクリックするとそのペインが非アクティブになり、いずれかのペインを完全に展開してより詳細なデータを表示できます。非アクティブのペインを再表示するには、逆向きの矢印をクリックするとペインが再表示されます。

様々なコンテキスト依存（ショートカット）メニューがあり、これらは、ペイン内のデータを右クリックすると **Governance Studio** に表示されます。これらのメニューの内容についてはこのリファレンス全体で説明します。

2

構成および管理

この章では、Governance Studio を構成および管理する方法を説明します。

Governance Studio の DSA の構成

Governance Studio を使用するには、正しく構成された DSA を使用する必要があります。構成時には、適切な出力タイプを選択する必要があります。この項では、各出力タイプについての Governance Studio オプションの機能を説明しています。

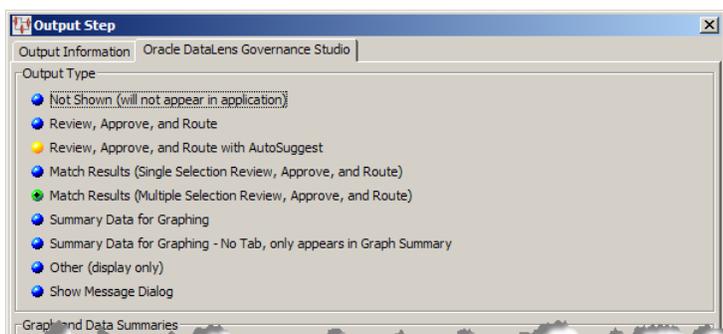
さらに、この項では、Governance Studio プロジェクトの DSA テンプレートを作成するために必要な情報の概要も示しています。DSA の設計の詳細は、Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Application Studio リファレンス・ガイドを参照するか、Enterprise DQ for Product 管理者に連絡してください。

DSA の出カステップへのアクセス

Application Studio で DSA をオープンし、任意のテキスト出力ノードをダブルクリックします。

注意： Governance Studio プロジェクトでは、テキストベースの出力についてのみレポートされるため、DSA には結果を返すテキスト出カステップが 1 つ以上存在する必要があります。出力タイプをこの項で説明しているように「Not Shown (will not appear in application)」に設定している場合、データベース出力など、これ以外の出力は無視されます。

Governance Studio の出力構成オプションを表示するには、「Oracle DataLens Governance Studio」タブをクリックします。



Governance Studio の出力タイプ・オプション

前の図で示されているように、Application Studio の「Output Step」ダイアログを使用して、次のいずれかの出力タイプを選択し、データが Governance Studio で表示される状態を指定できます。

Not shown (will not appear in application)

結果は Governance Studio コンソールの出力タブに表示されません。データベース出カステップのように、Governance Studio 要件に準拠しない結果にこの出力タイプを使用します。

Review, Approve and Route

指定した出力条件に完全に一致するデータ・レコードが結果として表示されます。ユーザーが処理を続行する必要がある DSA プロセスの結果を表示する場合、この出力タイプを使用します。

Review, Approve and Route with AutoSuggest

指定した出力条件に完全に一致するデータ・レコードが結果として表示されます。レコードが品質のしきい値より低く、補完が必要な DSA プロセスの結果を表示する場合、この出力タイプを使用します。この場合、ユーザーは AutoSuggest 機能を起動し、属性値が欠落しているレコードを補完する推奨のセットを表示できます。

Match Results (Single Selection Review, Approve, and Route)

一致または重複条件に合致するデータ・レコードの候補が、出力スプレッドシートの分割画面下部に表示されます。照合品目のリストから 1 つのデータ・レコードのみ選択できます。レコードはダウンストリーム処理が可能です。照合プロセスを実行する DSA テンプレートの結果を表示する場合、この出力タイプを使用します。

Match Results (Multiple Selection Review, Approve, and Route)

一致または重複条件に合致するデータ・レコードが、出力スプレッドシートの分割画面下部に表示されます。照合品目のリストから複数のデータ・レコードを選択できます。レコードはダウンストリーム処理が可能です。照合プロセスを実行する DSA テンプレートの結果を表示する場合、このタイプを使用します。

Summary Data for Graphing

要約情報がグラフで表示されます。このオプションではレコードを選択できません。グラフのバーはボタンのように機能し、クリックすると、選択したバーで示されているデータの出力タイプにジャンプします。

Summary Data for Graphing - No Tab, only appears in Graph Summary

個別のタブは作成されず、データは「Graph Summary」タブのみに表示されます。

Other (Display Only)

結果の情報はスプレッドシート形式で表示され、ユーザーによる対話処理はできません。

Show Message Dialog

エラーおよび警告を含めた情報メッセージがユーザーに表示されます。

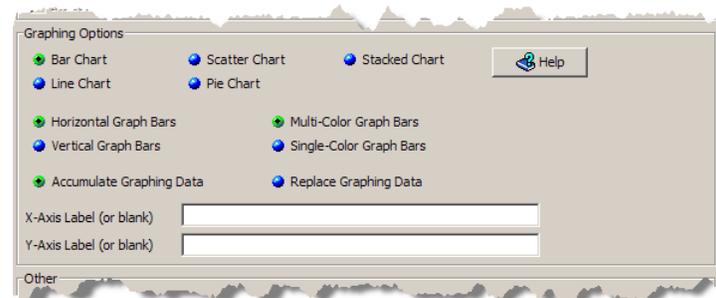
Governance Studio のグラフ・オプション

Application Studio の「Output Step」ダイアログ内のこのセクションは、前の項で説明されているように、「Summary Data for Graphing」オプションのうちのいずれかが選択されている場合のみ、アクティブになります。

出力タイプには、4 つのグラフ・オプションがあります。グラフに関する 2 セットのオプションの混合と組み合わせが可能で、次のように、X 軸と Y 軸に対するラベルを作成できます。

- 棒の向き
 - 水平
 - 垂直棒
- 棒の色
 - 多色の棒
 - 単色の棒

次の図に示すように、Governance Studio でのグラフの表示方法を構成するために、次のグラフ・オプションから選択できます。



定義された出力タブ全体のデータ値は、次のタイプのグラフで比較および表示できます。

Bar Chart (棒グラフ)

データを棒形式で表示する 3-D の色付けされた視覚効果。棒の向きは、「Horizontal Graph Bars」オプションまたは「Vertical Graph Bars」オプションのいずれを選択するかによって決定されます。このタイプのグラフでの色の使用方法は、「Multi-Color Graph Bars」(出力タブごとに異なる色) または「Single-Color Graph Bars」(すべての出力タブで 1 つの色) を使用して定義します。

Line Chart (折れ線グラフ)

簡素化された方法で様々な出力データ・ポイントを接続する線。

Scatter Chart (散布グラフ)

データの関係を示す接続された一連のマーカ。

Pie Chart (円グラフ)

各タブが合計に占める割合で描画される 3D の色付けされた表現。

Stacked Chart (積上げグラフ)

各タブが合計に占める割合で描画される 3D の色付けされた表現。

累積グラフ・データ

新しいデータが追加されても元のデータは保持され、すべてのグラフで反映されます。

置換グラフ・データ

グラフを作成する前に、すべてのデータが新しいデータで置換されます。グラフの値が正確であるように、DSA によって毎回結果が再計算されます。

X and Y-Axis Labels

X 軸および Y 軸でグラフ化されたデータに意味のあるラベルを追加するか、空白のままにしてデフォルトのラベルを使用できます。

「Help」ボタン

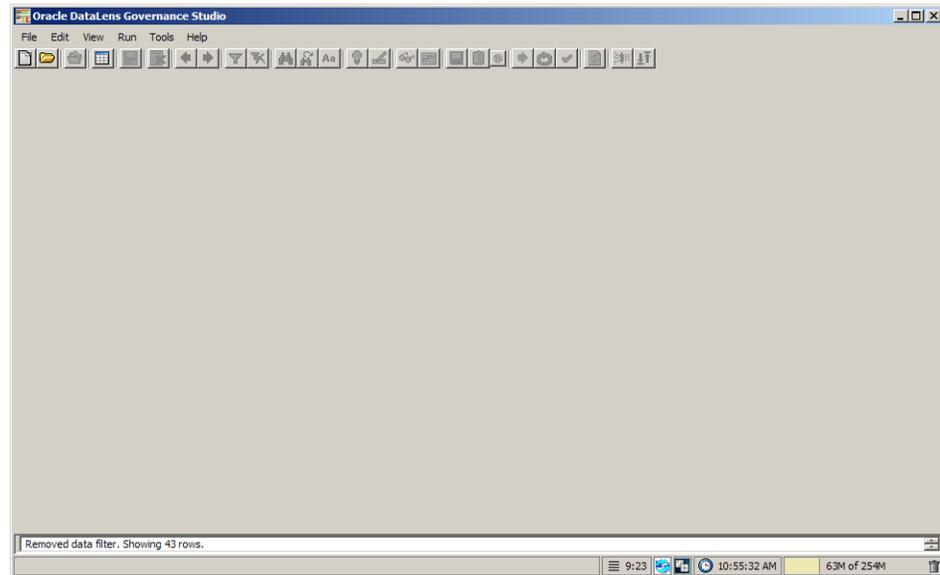
「Help」ボタンを使用して、様々なグラフ・オプションの情報を表示できます。

注意： Governance Studio プロジェクトの基礎となる DSA の出力ステップを変更した場合、DSA の変更をチェック・インし、Governance Studio プロジェクトをリフレッシュする必要があります。

Governance Studio の起動

DSA に出カステップを追加し、Governance Studio の出力の構成をした後、Governance Studio でプロジェクトを作成できます。この項では、Application Studio で作成された DSA で Governance Studio プロジェクトを作成および実行する手順を説明します。

Governance Studio を初めて起動する場合は次の図のように空白のクライアント・ワークスペースが表示されます。そうでない場合は、前回のジョブ実行結果が表示されます。

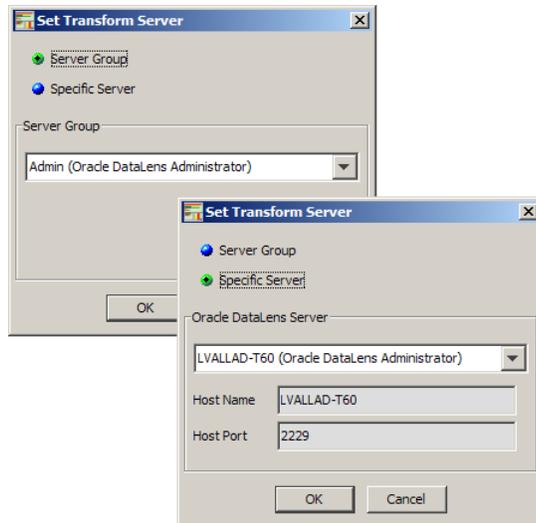


Transform Server の設定

Governance Studio GUI を初めて使用する際は、メッセージが表示され、Governance Studio プロジェクトを実行する Oracle DataLens Server の場所を Transform Server で設定するよう要求されます。



1. 「OK」をクリックします。



データ変換に使用する特定のサーバーまたはサーバーのグループを選択できます。

2. 「**Server Group**」または「**Specific Server**」オプションのいずれかを選択します。
3. 下向きの矢印をクリックしてサーバー・オプションを表示し、適切なサーバーを選択します。

サーバーのグループを選択する場合、「Administrator」、「Development」、「Production」または「Quality Assurance」サーバー・グループから選択できます。デフォルトは「Administrator」グループです。

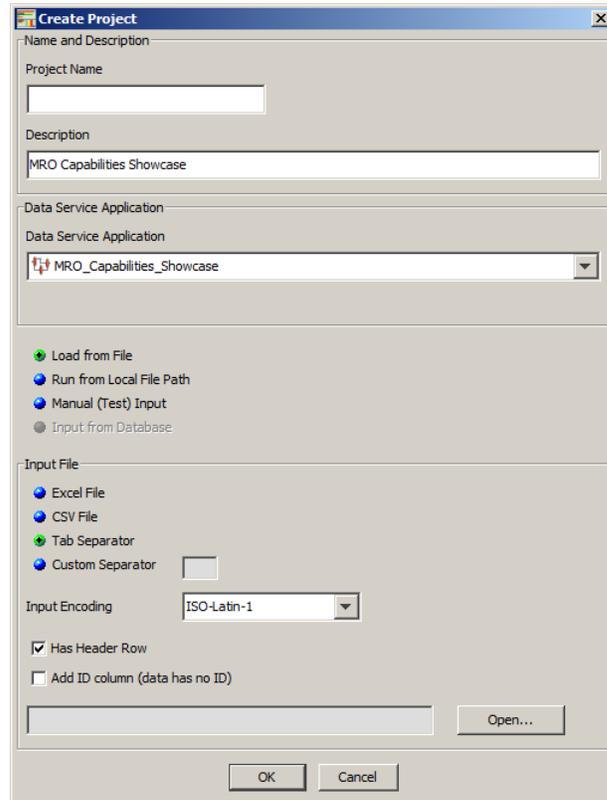
4. 「**OK**」をクリックします。

変換サーバーに通知され、このサーバーがすべてのデータ変換に使用されます。「**Tools**」メニューの「**Set Transform Server**」オプションを使用して、**Transform Server** およびホスト・ポートをいつでも変更できます。

Governance Studio アプリケーションの起動画面が表示されます。

Governance Studio プロジェクトの作成および実行

新規 Governance Studio プロジェクトを作成するには、「File」メニューから「New Project」を選択します。次の図に示すような「Create Project」ダイアログ・ボックスが表示されます。



「Create Project」ダイアログで新しい Governance Studio プロジェクトを作成します。次に、構成可能な Governance Studio プロジェクトのパラメータを示します。

Project Name

Governance Studio プロジェクトの名前。

Description

プロジェクトの説明。説明を指定する必要があります。

Data Service Application

Governance Studio プロジェクトで実行される DSA、および入力データの受信方法を指定します。Governance Studio では、結果を返す 1 つ以上のテキスト出力ステップが必要であるため、テキスト出力のない DSA はリストに表示されず、新規プロジェクトの作成に使用できません。

Input File

入力データのタイプを指定します。

入力データの取得

プロジェクト名を指定し、説明を入力した後、Oracle DataLens Server にチェック・インされた DSA のリストから DSA を選択する必要があります (DSA の作成方法の詳細は、Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Application Studio リファレンス・ガイドを参照してください)。指定する入力データは、以前に作成した DSA の仕様と互換性がある必要があります。詳細は、2-2 ページの「Governance Studio の DSA の構成」を参照してください。

プロジェクトに入力データをロードするには、まずリスト内からデータ・モードを 1 つ選択し、次に色付き表示されたオプションの中の 1 つを使用して対応する入力データ・ファイル・タイプを選択する必要があります。オプションにカーソルを合せると色が変化し、クリックすると選択したオプションが緑色で表示されます。

DSA の入力データの受信オプションは次のとおりです。

- **Load from File:** すべてのデータがロードされます。
- **Run from Local File Path:** データはディスクからストリームされます。
- **Manual (Test) Input:** データは手動エントリによって入力されます。
- **Input from Database:** データはデータベースから取得されます。

「Create Project」ダイアログ・ボックスの入力データ・タイプ・オプションは、選択したデータ・モードに基づいて異なります。たとえば、入力データがデータベースから取得される場合、「Input from Database」の選択肢のみがアクティブで、デフォルトで選択されます。

サポートされている入力データ・タイプは次のとおりです。

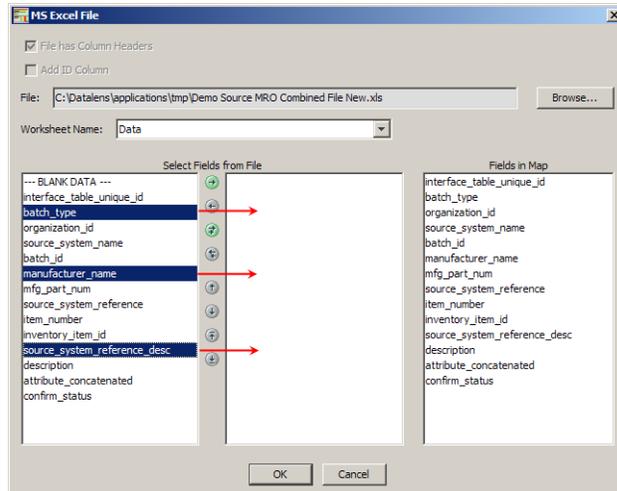
- タブ区切り
- Excel ファイル
- カンマ区切りファイル
- カスタム・セパレータ

注意： 計数データは整数形式でないとエラーが発生します。

次の項では、入力データ・ファイルを開いてデータを取得し、ロードする例を説明します。

Excel 入力ファイルを開く

1. 「Load from File」オプションを選択します。
2. 「Excel File」オプションを選択して Excel ファイルを指定します。
3. 「Open...」をクリックします。
「MS Excel File」ダイアログ・ボックスが表示されます。



4. 「Browse」をクリックし、データ・ファイルを選択し、ダブルクリックします。
5. データが含まれているワークシートが表示されていない場合は、「Worksheet Name」リストから選択します。
6. 左ペインに表示されている入力ファイルのフィールドから、右ペインに表示されている DSA Transformation Map のフィールドに一致するものを選択し、矢印ボタンを使用して移動させます。

一重矢印ボタンは1つのフィールドを移動させ、二重矢印ボタンはすべてのフィールドを左または右に移動させます。上矢印および下矢印を使用して、DSAによるフィールド処理の順序を変更できます。上または下に線が表示されている矢印は、選択されているフィールドをそれぞれ一番上または一番下に移動させます。

DSAの入力データに関連付けられている出力フィールドが存在しない場合は、「-BLANK DATA-」を使用できます。

7. 「OK」をクリックして変更を受け入れます。
「Create Project」ダイアログ・ボックスに戻ります。
8. 「OK」をクリックします。
9. 「Transform Data」ボタンをクリックするとデータが処理され、正常に実行されると「Summary」タブおよび出力タブに移入されます。

Governance Studio プロジェクトが作成され、次の図に示されているように、Governance Studio コンソールの「Source」タブに入力データが表示されます。

interface_table_unique_id	batch_type	organization_id	source_system_name	batch_id
150	BT50	Org_50	SourceName_50	B1050
151	BT51	Org_51	SourceName_51	B1051
152	BT52	Org_52	SourceName_52	B1052
153	BT53	Org_53	SourceName_53	B1053
154	BT54	Org_54	SourceName_54	B1054
155	BT55	Org_55	SourceName_55	B1055
156	BT56	Org_56	SourceName_56	B1056
157	BT57	Org_57	SourceName_57	B1057
158	BT58	Org_58	SourceName_58	B1058
159	BT59	Org_59	SourceName_59	B1059
160	BT60	Org_60	SourceName_60	B1060
161	BT61	Org_61	SourceName_61	B1061
162	BT62	Org_62	SourceName_62	B1062
163	BT63	Org_63	SourceName_63	B1063
164	BT64	Org_64	SourceName_64	B1064
165	BT65	Org_65	SourceName_65	B1065
166	BT66	Org_66	SourceName_66	B1066
167	BT67	Org_67	SourceName_67	B1067
168	BT68	Org_68	SourceName_68	B1068
169	BT69	Org_69	SourceName_69	B1069
170	BT70	Org_70	SourceName_70	B1070
171	BT71	Org_71	SourceName_71	B1071
172	BT72	Org_72	SourceName_72	B1072
173	BT73	Org_73	SourceName_73	B1073
174	BT74	Org_74	SourceName_74	B1074
175	BT75	Org_75	SourceName_75	B1075

Removed data filter. Showing 12 rows.
DSA: SCS_BATCH_PROCESSING_MAIN

注意： Governance Studio の入力データ行の制限は、Excel 2003 で 64K、Excel 2007 で 1M です。これよりも大きい入力データ・ファイルをロードすると、ファイル入力エラーが発生します。この場合、複数の小さな入力データ・ファイルを作成し、別々に処理します。

情報をロードしたデータ・ファイルおよびファイルへのパスが、ステータス・バーに表示されます。ファイル情報の下には、入力データの処理に使用される DSA 名が表示されます。

プロジェクト・テンプレート

DSA で一貫性を確保するためには、特定のテンプレートからプロジェクトを作成してオープンする機能が役立ちます。さらに、特権ユーザーは同じテンプレートを再利用して複数のバッチを処理できます。

プロジェクト・テンプレートの作成

1. 既存の DSA テンプレートから新規プロジェクトを作成するには、「File」メニューから「New Project From...」をクリックします。次の図に示されているように、プロジェクト ID の入力を求められます。
2. このプロジェクトを識別する一意の ID テキスト文字列を入力し、「OK」をクリックします。

一意のテキスト文字列が現在の DSA 名に付加されるため、テンプレートの作成に使用された DSA が明確になります。

たとえば、DSA 名が 'SCS_MAIN_PROCESSING' で '1000999' と入力すると、テンプレート名は 'SCS_MAIN_PROCESSING_1000999' となります。

プロジェクト・テンプレートのオープン

作成したテンプレートを取得するには、「New Project From...」機能を使用します。

1. 「File」メニューから、「Open Project From...」をクリックします。
2. 使用するテンプレートを検索して選択し、「OK」をクリックします。

プロジェクトがオープンし、データが変換されて、プロジェクトが使用できるようになります。

結果を表示しないプロジェクトのオープン

既存のプロジェクト・ファイルを開く際、データ結果を処理したり、出力タブに表示したりしないようにできます。データ結果を表示せずにプロジェクトを開くには、「File」メニューから「Open Project - No Results」をクリックし、開くプロジェクトを選択して、「OK」をクリックします。

注意： プロジェクトをバージョン 5.5 以降で作成した場合、データの要約がプロジェクトとともに保存されるため、「Data Summary」タブにデータの要約が移入されます。

この機能は、最大メモリ割当てを超過したために以前開くできなかったプロジェクトを開く際に役立ちます（クライアント・ワークスペース・フレームにある「Memory Cache」で、使用量が動的に更新されることを監視できます）。このような場合、前述のようにこの機能を使用してプロジェクトを開き、「Conserve Memory」および「Limits on Rows Retrieved」プロジェクト・オプションを適切に設定してデータを処理できるようにします。詳細は、2-14 ページの「Memory」タブを参照してください。

注意： 割当てメモリの超過を回避するためには、クライアントの EDQP Java Web Start メモリ設定を調整する必要がある場合があります。詳細は、Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Oracle DataLens Server 管理者ガイドを参照してください。

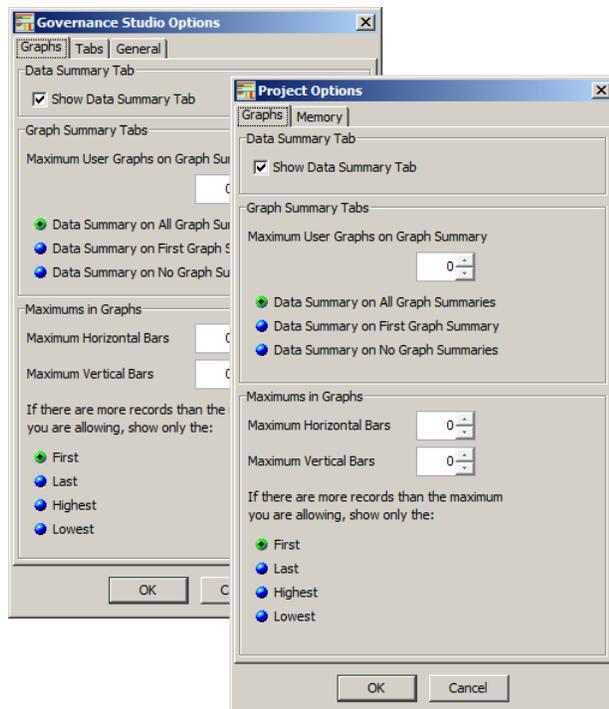
プロジェクトが前回実行された際、非同期式に実行された場合はこのオプションは使用できませんが、「File」メニューの「Open Project」コマンドを使用して結果を取得した後は使用できます。

構成オプション

グラフやタブの表示方法を含めたプロジェクト・オプションを、「Tools」メニューの 2 つのオプション・メニューの選択肢を使用して構成できます。

オープンしているプロジェクトのみのオプションを設定する場合は、「Tools」メニューから「Project Options」を選択します。

Governance Studio のすべてのプロジェクトのグローバル・オプションを設定する場合は、「Tools」メニューから「Options」を選択します。



「Graphs」 タブ

このタブは、「Governance Studio Options」および「Project Options」の両方で使用できます。「Graph Summary」および「Data Summary」タブでのグラフの表示方法を指定できます。

「Governance Studio Options」グラフ設定はグローバルで、新規プロジェクトを作成したときのデフォルト設定になります。ただし、プロジェクトについて定義する「Project Options」グラフ設定はそのプロジェクトのみに使用され、プロジェクトとともにエクスポートされるため、別のユーザーがインポートすると同じ設定が維持されます。

次のオプションを構成できます。

「Data Summary Tab」の選択肢

「Show Data Summary Tab」チェック・ボックスを選択すると、「Data Summary」タブが表示されます。

「Graph Summary Tab」の選択肢

リストを使用して、「Graph Summary」タブに表示されるグラフの最大数を設定します。

次のオプションの中から1つを選択して、タブの要約が表示される場所を設定します。

- it appears on all tabs (すべてのタブに表示する)
- it appears only on the first tab (最初のタブにのみ表示する)
- no graph summaries appear on any tabs (どのタブにもグラフの要約を表示しない)

「Maximum in Graphs」セクション

リストを使用して、横向きまたは縦向き（もしくはその両方）の棒の最大数を設定します。

レコードの合計数が棒の最大数を越えた場合、どのレコードを表示するかを設定します。

「Tabs」 タブ

これは「Options」のタブです。次のように、タブの表示方法を変更するよう、次のいずれか、または両方を指定できます。

Show all Tabs

1-17 ページの「[タスク・ペイン](#)」で説明されているように、すべてのタブが非表示ではなく、表示されます。

Show Tab Icons

タブの名前の隣に、タブのタイプのアイコンが表示されるため、タブの機能を容易に識別できます。たとえば、すべての出力タブには緑色のチェック・マークまたは黄色の疑問符アイコンが表示され、すべての「**Data Summary**」タブには棒グラフ・アイコンが表示されます。

「General」 タブ

これは「Options」のタブです。次の一般オプションを使用します。

Finish Job before Retrieval

設定すると、以下の例のように、各出力タブでジョブを完了し、データを取得および表示するまでの時間が「**Status Field**」に表示され、確認できます。

```
Results Retrieved for job 212. Run=57 seconds. Retrieval=5 seconds.
```

このオプションを選択すると、ジョブの完了前に結果を取得および表示する通常の Governance Studio の動作は一時的に停止されます。

Validate local Data Service Application

Oracle DataLens Server に常駐する同じ DSA ではなく、ローカル・ドライブに常駐する DSA を検証できます。ローカル DSA は、変更のためにチェックアウトしたものであるため、このオプションにより、DSA を Oracle DataLens Server にチェックインする前に検証できます。

さらに、Governance Studio により、データ処理に使用された Oracle DataLens Server の DSA 機能をローカル DSA が反映していることが確認されます。

Default Row Warning Count

Governance Studio によって警告メッセージが表示されるソース・データ行数のデフォルト値を設定できます。この行数を超えた場合の警告メッセージで、ユーザーがすべての行を取得するか、または指定されたデフォルト数の行を取得するかを選択できます。警告メッセージは、指定された警告行数より変換済行数（結果の行数）が大きいそれぞれのタブに表示されます。

デフォルトの行数は 5000 です。ゼロ (0) に設定すると、警告メッセージは表示されません。プロジェクトによって大きいデータ・セットが返される場合、適切なデフォルト値を設定することにより、発生しがちなメモリーの問題を回避できます。

この Governance Studio の全体的な警告行数オプションは各出力タブで上書きできます。これには、次の項で説明するように、「**Project Options**」の「**Memory**」タブを使用して個別の制限を設定します。

「Memory」タブ

これは「Project Options」のタブです。次のようにして、Governance Studio で使用可能なメモリーがどのように使用されるか、オプションを設定します。

Conserve Memory

このオプションを設定すると、出力タブはタブの選択時のみ移入されるため、メモリーを節約できます。ジョブの実行時（またはディスクからのロード時）にデータが取得され、それぞれの出力タブについて保存されますが、選択されるまで表示されません。このオプションが選択されていると、プロジェクトがオープンしても、出力タブをクリックするまで結果は表示されません。

このオプションを使用する際、「Keep Lines Cutoff」オプションが有効になり、別の出力タブの選択時にも、選択済出力タブにデータが保持されるよう指定できます。

注意： このオプションの設定時には「Re-run」ボタンを使用してデータを再処理できません（3-4 ページの「セカンダリ DSA の再実行」を参照）。これは、再実行操作によってデータが必要に応じてデータに追加できるよう、すべての出力タブが完全に移入されている必要があるためです。

Keep Lines Cutoff

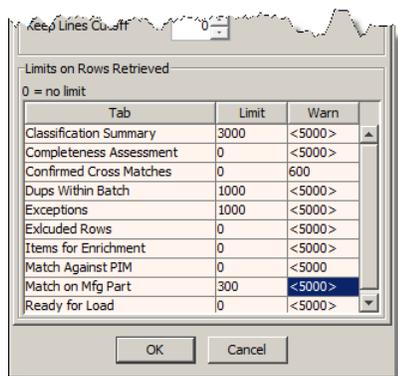
別のタブの選択時に出力タブに保持するデータの量を設定します。このオプションは、「Conserve Memory」チェック・ボックスが選択されるとアクティブになります。

設定した値による動作は次のとおりです。

- **ゼロ（デフォルト）**：別のタブが選択されても、タブのすべてのデータが確実に保持されます。
- **>ゼロ**：データの行数が指定された数を超えると、データがタブから削除されます。たとえば、値を 1000 行に設定し、1200 行存在すると、別のタブの選択時にデータが削除されます。逆に、900 行のみ存在している場合は、設定されている 1000 行の制限を超えていないため、データが保持されます。

Limits on Rows Retrieved

それぞれの出力タブで取得される行の最大数に個別の値を設定します。たとえば、特定の出力タブについて 50,000 行生成される場合、ジョブの処理にかかる時間を削減するために、最大 5000 行を取得するよう選択できます。



表の使用方法は次のとおりです。

- **「Tab」列**：それぞれのタブが表示されます。
- **「Limit」列**：1 つ以上のタブについて取得する行数の最大数を入力します。この値の設定によって「Warn」列が上書きされ、編集されないようロックされ、最大値に達しても警告メッセージが表示されません。

- **「Warn」列**: 表示されるデフォルトの警告メッセージ値を使用するか、Governance Studio によって警告メッセージが表示されるソース・データ行の数を入力します。この行数を超えた場合の警告メッセージで、ユーザーがすべての行を取得するか、または指定されたデフォルト数の行を取得するかを選択できます。この値を設定した後に、そのタブについて **「Limit」** 値を入力すると、**「Warn」** の値は上書きする **「Limit」** 値によって無視されるため、Governance Studio のデフォルト値に再設定されます。この値を再設定するには、Governance Studio のデフォルト警告数を山カッコで囲んで入力します。たとえば、デフォルトの警告数を変更しない場合、'`<5000>`' と入力します。

これらの指定された **「Limit」** および **「Warn」** 値は、2-13 ページの **「General」** タブ で説明されている **「Default Row Warning Count」** 値セットを上書きします。

ヒント: 生成された行の合計数は、そのタブのツールチップを表示すれば、選択しなくても見ることができます。

注意: 割当てメモリの超過を回避するためには、クライアントの EDQP Java Web Start メモリ設定を調整する必要がある場合があります。詳細は、Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Oracle DataLens Server 管理者ガイドを参照してください。

プロジェクトの実行およびレビュー

この章では、Governance Studio プロジェクトを実行し、それを利用してソース・データをレビューする方法を説明します。

Governance Studio プロジェクトの実行

Governance Studio ジョブは、同期的または非同期的に実行できます。同期的実行は、Governance Studio のクライアント・ワークスペースのフォアグラウンドで実行され、ジョブの実行ボタンをクリックして開始されます。同期的ジョブの実行中は、完了するまでプログラムの対話は中断されます。非同期的実行はバックグラウンドで実行され、Governance Studio アプリケーションが動作を続けられるように解放します。大きなジョブは非同期的に実行する必要がありますが、小さいジョブは同期的に実行できます。

同期的実行

Governance Studio ジョブをリアルタイムで（同期的に）実行するには、ツールバーの「**Run Synchronously**」ボタンをクリックするか、「**Run**」メニューから「**Transform Data**」を選択します。

非同期的実行

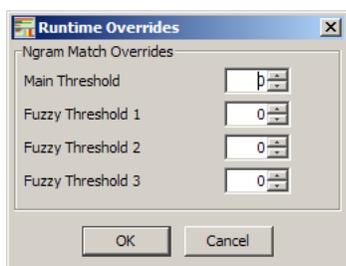
Governance Studio ジョブをバックグラウンドで（非同期的に）実行するには、ツールバーの「**Submit Job**」ボタンをクリックするか、「**Run**」メニューから「**Submit Job**」を選択します。これにより、ジョブが発行され、プロジェクトが閉じられます。

データの上書き実行

Governance Studio プロジェクトの DSA に「**Ngram Match**」または「**Attribute Match 2**」（「**Semantic Key 2**」に関連付けられている）が含まれている場合、DSA で設定されている照合しきい値を変更して、データ変換に指定する設定を使用できます。

注意： 関連付けられた DSA にこれらの照合プロセスが含まれていない場合、このオプションは非アクティブです。

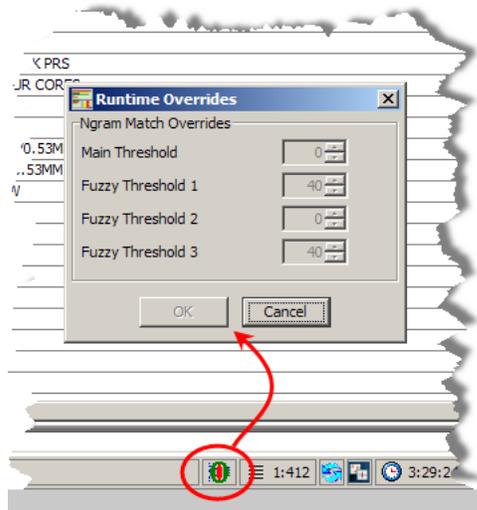
照合上書きを有効にして Governance Studio を実行する場合、「**Run**」メニューから「**Transform Data with Overrides**」を選択します。



「**Runtime Overrides**」ダイアログ・ボックスを使用して全体の照合しきい値やあいまい検索設定の実行時のみの設定を構成し、「**OK**」をクリックします。データが実行時設定を使用して即時変換され、結果が表示されます。

しきい値の設定の詳細は、Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Application Studio リファレンス・ガイドを参照してください。

データ変換が完了すると、次のように Governance Studio フレームに「**Override**」ボタンが表示されます。



「Override」をクリックすると、上書き照合しきい値設定がレビュー用に表示され、変更できません。

プロジェクト出力のレビュー

Governance Studio プロジェクトを実行した後、出力をレビューして、出力の一部または全体をダウンストリーム処理用に準備できます。これには、Web 検索インタフェースに代替を送信して抱合せ販売や高額商品の販売を可能にしたり、例外をナレッジ・エンジニアに送信してデータ・レンズを適切に変更し、データのナレッジや分類を改善できるようにすることが含まれます。

また、AutoSuggest 機能を使用して、スペルミスや短縮形のために欠落した属性が Governance Studio で自動的に推奨されるようにすることができます。その後、自動推奨されたデータを出力タブ表に転送してさらに処理できます。

この項では、属性を抽出し、分類統計および推奨を提供する Governance Studio の出力例を示します。

基礎となる DSA で構成された出力のタイプにより、結果に基づいて他のアクションをさらに実行できます。各出力タイプは、Governance Studio プロジェクトのタブによって示されます。

一般的な処理

出力タブで選択された行を「チェック」（選択）し、基礎となる DSA 出力ステップで指定された次のアクションに基づき、処理を続行できます。

アクション	ツールバー・ボタン
処理（適用 DSA）	
再処理（再実行 DSA）	
完了（完了 DSA）	
クイック参照（参照 DSA）	

ソース・データの処理に使用されているプライマリ DSA が「**Status Field**」に表示されます。データの処理にセカンダリ DSA が使用される場合、その処理ボタンのツールチップに括弧付きで表示されるため、データ処理の前に確認できます。

セカンダリ DSA の適用

データをレビューした後、データのセットを別の DSA に送信し、処理およびテキスト出力の生成を続行できます。このテキスト出力は、データベースに挿入したり、電子メールで送信したり、ファイルとして保存できます。

1. セカンダリ DSA をデータのセットに適用するには、出力タブのチェック・マーク列を使用して行のセットを選択します。
2. 「Run」メニューから「**Apply Checked Rows**」を選択するか、ツールバーの「**Apply**」ボタンをクリックします。

セカンダリ DSA の再実行

レビュー済データのセットの処理にセカンダリ DSA を適用する場合と同様に、再実行機能は DSA を適用するだけでなく、結果を現在のプロジェクトに自動的に返し、既存の出力データにマージします。結果をマージした後、処理対象として選択されたデータはメイン DSA 出力から削除されます。

1. セカンダリ DSA をデータのセットに適用するには、出力タブのチェック・マーク列を使用して行のセットを選択します。

注意： 再実行対象として選択されたすべてのデータが再実行操作に組み込まれるため、すべての上部タスク・ペインのソース・データおよび下部タスク・ペインの照合結果が再処理されます。

2. 「Run」メニューから「**Re-run Checked Rows**」をクリックするか、ツールバーの「**Re-run**」ボタンをクリックします。

注意： 「**Conserve Memory**」オプションが選択されている場合、再実行は有効ではありません（グレー表示されます）。詳細は、2-11 ページの「**構成オプション**」を参照してください。

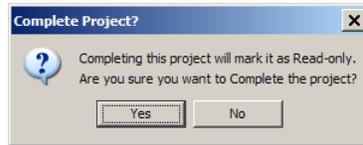
プロジェクトの完了

現行の DSA を完了 DSA に関連付けて、特定のプロジェクト実行を完了ステータスに設定できます。完了 DSA には、プロジェクト・クローズ・タスクおよびプロジェクトの最終クローズアウトに必要な機能を含めることが可能です。

プロジェクトが完了（クローズ）した後、プロジェクトは読取り専用状態に設定され、変更できなくなります。このプロジェクトは、「**New Project From...**」オプションを使用して新規プロジェクトを作成するために使用できますが、データの変更または操作に使用されるすべての他のアプリケーション機能は非アクティブになります（グレー表示されます）。

1. プロジェクトをクローズするには、「**Release Batch**」タブをクリックします。
2. クローズする解放バッチ ID を検索し、隣のチェック・ボックスをクリックします。
3. 「Run」メニューから「**Complete Project**」をクリックするか、ツールバーの「**Complete Project**」ボタンをクリックします。

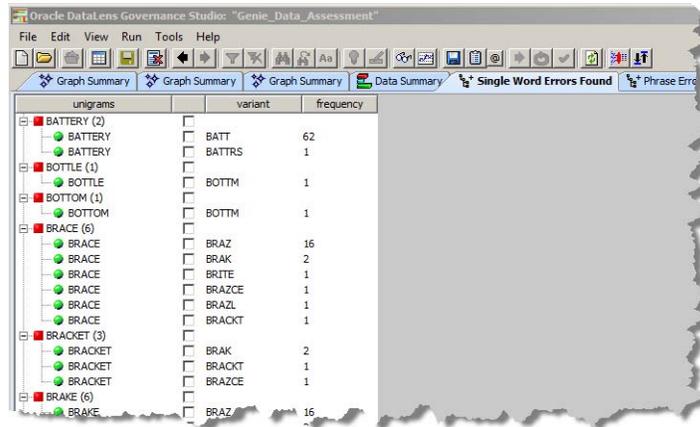
次の図に示すような確認ダイアログが表示されます。



- プロジェクトをクローズする場合は「Yes」をクリックし、そうでない場合は「No」をクリックして処理を取り消します。

クイック参照の適用

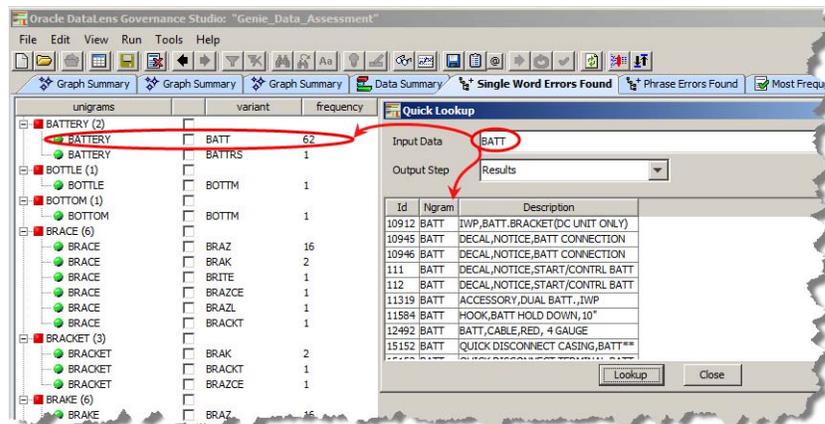
クイック参照 DSA は N グラム照合 DSA を使用する出力ステップに割り当てられており、元の記述のコンテキストでのバリエーションを表示します。結果は、次のタブのサンプルに示すように、Governance Studio の N グラム出力ステップの出力タブに表示されます。



出力タブには、ユニグラム、バイグラムまたはトライグラムのバリエーションのセットとともに、入力データでそのバリエーションが出現した回数（頻度）が表示されます。

- 特定の N グラムに関連付けられた入力データ情報を参照するには、N グラムを選択し、ツールバーの「Quick Lookup」ボタンをクリックします。

次の例では、「BATTERY」ユニグラムの「BATT」バリエーションが選択されており、入力データにおけるこのバリエーションのクイック参照が実行されています。



「Quick Lookup」ダイアログ・ボックスに「BATT」バリエーションの 62 個のインスタンスが表示されています。

2. 選択されている N グラムについて「**Input Data**」フィールドに別のバリエーションを参照対象として入力し、「**Lookup**」をクリックできます。さらに、クイック参照機能を使用する対象として別の **DSA 出力ステップ**を選択できます。これらのオプションを繰り返し実行して、結果データを検索できます。
3. 「**Close**」をクリックして「**Quick Lookup**」ダイアログ・ボックスを閉じます。

その他の機能

この項では、プロジェクトのデータのレビューに使用できる他の機能を説明します。

ジョブ・ステータスの表示

「**View**」メニューの「**View Job Status**」オプションを使用して、DSA に関連付けられているすべてのジョブのステータスを同時に表示できます。

ID	Owner	Status	Data Service Application	Server	Start	Duration	Description	Lines
38	admin	Completed	SCS_BATCH_PROCESSING_MAIN	LVALLAD-T60	1/27 03:36 PM	7 secs	Submitted by Governance Studio	322
37	admin	Completed	SCS_BATCH_PROCESSING_MAIN	LVALLAD-T60	1/27 03:25 PM	7 secs	Submitted by Governance Studio	0
36	admin	Failed	SCS_BATCH_PROCESSING_MAIN	LVALLAD-T60	1/27 03:25 PM	0 secs	Submitted by Governance Studio	0
35	admin	Failed	SCS_BATCH_PROCESSING_MAIN	LVALLAD-T60	1/27 03:25 PM	0 secs	Submitted by Governance Studio	0
34	admin	Completed	SCS_BATCH_PROCESSING_MAIN	LVALLAD-T60	1/27 03:01 PM	6 secs	Submitted by Governance Studio	322
33	admin	Completed	SCS_BATCH_PROCESSING_MAIN	LVALLAD-T60	1/27 02:39 PM	6 secs	Submitted by Governance Studio	322
32	admin	Completed	SCS_BATCH_PROCESSING_MAIN	LVALLAD-T60	1/27 02:17 PM	7 secs	Submitted by Governance Studio	322
31	admin	Completed	SCS_BATCH_PROCESSING_MAIN	LVALLAD-T60	1/27 01:40 PM	7 secs	Submitted by Governance Studio	322
30	admin	Completed	SCS_BATCH_PROCESSING_MAIN	LVALLAD-T60	1/27 01:38 PM	7 secs	Submitted by Governance Studio	322
29	admin	Completed	SCS_BATCH_PROCESSING_MAIN	LVALLAD-T60	1/27 01:22 PM	8 secs	Submitted by Governance Studio	322
28	admin	Completed	SCS_BATCH_PROCESSING_MAIN	LVALLAD-T60	1/27 01:10 PM	7 secs	Submitted by Governance Studio	322

保留中または失敗したものも含め、**Governance Studio** または **Oracle DataLens Server** で作成されたすべてのジョブが表示されます。デフォルトで、現在のユーザーのジョブのみがリストに表示されます。

このビューは、「**User**」、「**Status**」、「**Server**」および「**Since**」リストを使用して変更できます。これらのコントロールにより、表示データが選択内容に基づいてフィルタリングされます。たとえば、「**Since**」リストを使用して、データ取得の開始日に設定する日付を変更できます。または、「**Status**」から「**Failed**」を選択することにより、取得したデータからすべての失敗したジョブがフィルタリングされます。

ID	Owner	Status	Data Service Application	Server	Start	Duration	Description	Lines
39	admin	Failed	SCS_BATCH_PROCESSING_MAIN	LVALLAD-T60	1/27 04:00 PM	2 secs	test1	0
36	admin	Failed	SCS_BATCH_PROCESSING_MAIN	LVALLAD-T60	1/27 03:25 PM	0 secs	Submitted by Governance Studio	0
35	admin	Failed	SCS_BATCH_PROCESSING_MAIN	LVALLAD-T60	1/27 03:25 PM	0 secs	Submitted by Governance Studio	0

ジョブが実行中の場合は、選択して「**Cancel**」をクリックして停止できます。結果ファイルを出力するジョブについては、リストからジョブを選択し、「**Get Job Results**」をクリックすると結果を取得できます。次の項でこの説明をします。

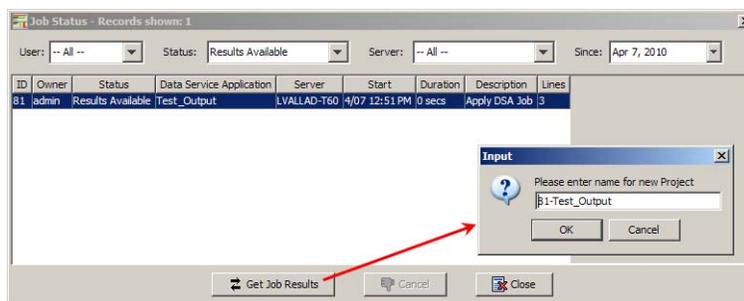
ジョブ結果の取得

Oracle DataLens Server から実行され、出力が Governance Studio に表示されるよう設定されているジョブは、いずれも、新規プロジェクトの作成に使用できます。

注意： DSA が処理ジョブ（同期的または非同期的）の結果を返す場合、データを即時取得または削除する必要があります（特に大量のデータを返すジョブの場合）。この処理に失敗すると、サーバー・メモリーを使い果たしたときに Oracle DataLens Server がクラッシュする可能性があります。メモリーは、取得されない多数の小さいジョブによって使い果たされる可能性があり、これは、サーバーに対して設定された DSA の最大メモリーまたはチャンク・サイズより小さい各 DSA ジョブは、そのジョブが取得されるか、またはサーバーが再起動されるまでメモリー内に保持されるためです。これらの値の設定の詳細は、Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Oracle DataLens Server 管理者ガイドを参照してください。

ジョブの実行結果を表示し、それに基づいて新規プロジェクトを作成するには、次の手順を実行します。

1. 前の項で説明されているように、「View」メニューから「View Job Status」を選択します。
使用可能なジョブのリストが表示されます。
2. 「Status」リストから、「Results Available」を選択します。「Results Available」ステータスは完了したジョブのみに該当します。
3. 結果を取得するジョブを選択します。
結果が取得可能なジョブを選択すると、「Get Job Results」ボタンがアクティブになります。
4. 「Get Job Results」をクリックします。



プロジェクト名の入力を求められます。現在の名前を使用するか、別の名前を入力します。デフォルトで、ジョブ ID および DSA 名に基づいた新規プロジェクト名が「Input」ダイアログ・ボックスに表示されます。

5. 新規プロジェクトに別の名前を入力するか、表示されているデフォルト名を使用して、「OK」をクリックします。

新規プロジェクトが作成され、データが変換されます。

注意： プロジェクトがオープンの際にジョブ結果を表示すると、新規プロジェクトの作成前に閉じられ、変更を保存するようプロンプトが表示されます。

選択した行の電子メール送信

この機能を使用すると、チェック・マークで選択された行のみが電子メールで送信されますが、選択された行は保存されません。たとえば、「Source」タブに適用されない行などです。選択された行は、プロジェクトが常駐する DataLens ディレクトリに Excel スプレッドシートとして自動的に保存されます。ファイル名はタブ名を使用して作成されます。表示されるダイアログでファイル名または保存場所を変更できます。

プロジェクトのエクスポートおよびインポート

関連するソース入力データ、DSA および変更がすべて含まれているプロジェクトのエクスポート機能は、非常に強力なツールです。完全に整合性のあるプロジェクトを他のユーザーと共有できます。これを Governance Studio にインポートすることにより、同等の表示およびレポートが複数のユーザーによって達成できます。

プロジェクトのエクスポート

1. エクスポートするプロジェクトをオープンします。
2. プロジェクトのすべての調整が完了しており、すべてのデータが適切に変換されていることを確認します。
3. 「File」メニューから、「Export Project」を選択します。
ファイルの保存ダイアログが表示され、ファイル名として現在のプロジェクト名に .ams ファイル拡張子が付加されて表示されます。
4. 表示されているファイル名およびファイルの保存先ディレクトリを使用するか、これらを入力し、「OK」をクリックします。

プロジェクトおよびそのデータが指定されたファイル名およびディレクトリにエクスポートされ、他のユーザーと共有できるようになります。

プロジェクトのインポート

1. 「File」メニューから、「Import Project」を選択します。
ファイルのオープン・ダイアログが表示されます。
2. インポートするプロジェクト・ファイルを検索し、選択します。ファイル拡張子は .ams である必要があります。
3. 「OK」をクリックします。

オープンしているプロジェクト・ファイルがあれば閉じられ、選択されたプロジェクトが開きます。

4

基本タブ

この章では、Governance Studio で表示されるタブの基本的なタイプを説明します。

「Source」 タブ

既存の Governance Studio プロジェクトの「Source」タブには、処理可能な入力データが表示されます。

id	part_number	description	manufacturer	Source
500140	502141	0.75MM/3C CONTROLFLEX CY 300/500V GREY IEC332-3C F2 COMPLIANT	Renesas Technology Corp	Legacy-1
500145	502134	0.75MM/5C CONTROLFLEX YY PCU/LSZH/LSZH GREY 300/500V NOD 1-4 + GRN/YLLW	Fenghua Advanced Technology Co Ltd	ERP-2
500150	502235	0.75MM/SPR B55308 PT1 TYPE 2 PCU/PE/COLL SCR/NL/SF/SWA/LSF BLK 24J0.2MM	Broadband TelCom Power Inc	3rd Party-3
500155	500245	0-80 X 3/16 CUP PT SOC SET SCR 18-8 SS	IXYS Corp	Legacy-1
500160	500784	0-80X1 18-8SS SOCKET HEAD CAP SCREWS	Solid State Electronics	ERP-2
500165	500554	1 1/4-7X5 1/2 Hx Hd Cap Scr-Gr 5 Zinc Pl	ST-Semiconductors of Indiana Inc	3rd Party-3
500170	500599	1 1/8-12X4 HX HD Cap Scr-Gr 8 Zinc Pl(LE)	Alpha Electronics Corp	Legacy-1
500175	502182	1.5MM/2C CONTROLFLEX YY PCU/PVC GREY 300/500V CORES NOD 1-2	ST-Semiconductors of Indiana Inc	ERP-2
500180	502106	1.5MM/2C CONTROLFLEX YY PCU/PVC GREY 300/500V CORES NOD 1-2	Semi Elements Inc	3rd Party-3
500185	502215	1.5MM/2C CONTROLFLEX YY PCU/PVC GREY 300/500V CORES NOD 1-2	Manutech Inc	Legacy-1
500190	502218	1.5MM/2PR B55308 PT1 TYPE 2 IND AND COLL SCREEN BLUE RP15 7J0.53MM BLU/BLK PRS	Seagate Microelectronics LTD	ERP-2
500195	502148	1.5MM/5C CONTROLFLEX SY PCU/PVC/PSWB/PVC 300/500V CENELEC COLOUR CORES	Microwave Diode Corp	3rd Party-3
500200	502217	1.5MM/5C CONTROLFLEX YY PCU/PVC GREY 300/500V NOD 1-4 + GRN/YLLW	Newport Components Ltd	Legacy-1
500205	502197	1.5MM/SPR B55308 PT1 TYPE 2 COLL SCREEN BLK RP15 7J0.53MM	Epada Memory Inc	ERP-2
500210	502231	1.5MM/SPR B55308 PT1 TYPE 2 PM73479 PCU/PE/COLL SCR/NL/SF/SWA/LSF BLK 7J0.53MM	Tottori Sanyo Electric Co LTD	3rd Party-3
500215	502223	1.5MM/6C B55308 PT1 T2 PM73479 PCU/PE/COLL SCR/NL/SF/SWA/LSF BLK D63 7J0.53MM	Amex Electronics Inc	Legacy-1
500220	502220	1.5MM/8C CONTROLFLEX YY PCU/PVC GREY 300/500V NOD 1-7 + GRN/YLLW	Teledyne Cougar	ERP-2
500225	500183	1/2-13 X 1" A193 B7 HEAVY HEX BOLT	Crystek Crystals Corp	3rd Party-3
500235	500803	1/2-13 X 16 NON-STD ALLY SOKT CAP SCR	Teledyne Cougar	Legacy-1
500240	500467	1/2-13 X 3/4 FLAT PT Soc Set Scr Alloy St+K	Semi Elements Inc	ERP-2
500245	500370	1/2-13X1 GR2 GALV HEX HEAD BOLT	Ducati Energia Spa	3rd Party-3
500250	500313	1/2-13X1" SERRATED HEX FLANGE BOLT	LXD Inc	Legacy-1
500255	500566	1/2-13X14 Sq Hd Bolt Gr 2	Seaward Electronics Inc	ERP-2
500260	500820	1/2-13X2 1/2 HOKLOKROME SOCKET HEAD CAP SCREW USA	Agilent Technologies	3rd Party-3
500265	500534	1/2-13X2 3/4 FH SI MACHINE SCREW ZINC PL	Semi Elements Inc	Legacy-1
500270	500556	1/2-13X4 1/2 Hx Hd Full Thrd Cap Scr Gr 2	Lapp USA	ERP-2
500275	500283	1/2-13X4.50 W/NYL PTCH ALLOY SKT HD CAP SCR	Taiyo Yuden Inc	3rd Party-3

「Source」タブから 1 行または複数の行を選択し、DSA を使用して処理できます。次の方法で行を選択できます。

表のすべての行

[Ctrl] キーを押しながら [a] キーを押します。

連続していない行

[Ctrl] キーを押さえたまま、選択するそれぞれの行をクリックします。

連続した行のグループ

[Shift] キーを押さえたまま、選択するグループの最初の行をクリックし、次に最後の行をクリックします。

詳細は、3-2 ページの「Governance Studio プロジェクトの実行」を参照してください。

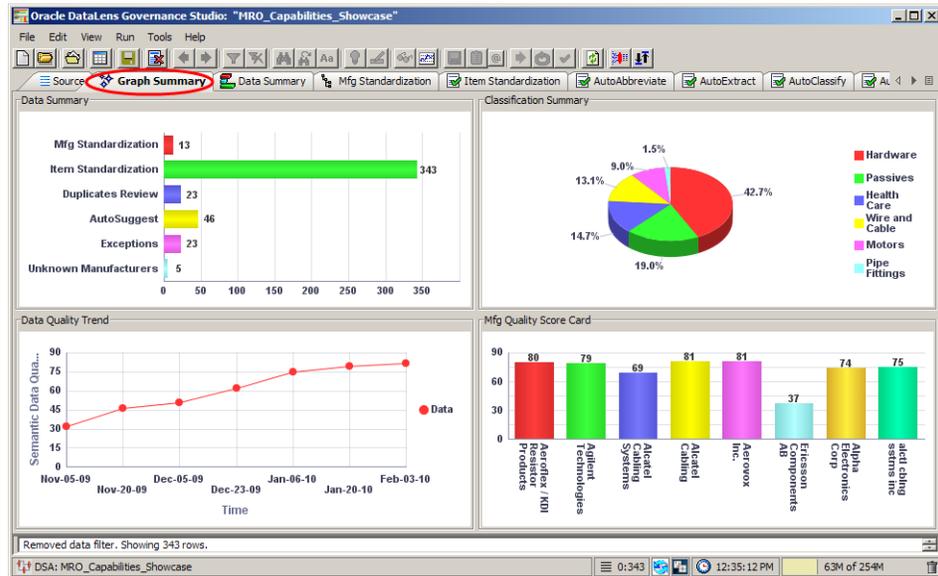
表内のフィールドは、一意の ID 列のフィールドを除き、編集可能です。フィールドをダブルクリックして編集し、その後 [Enter] キーを押すか、編集したフィールドの外をクリックします。変更済のフィールドは緑色でハイライト表示されるため、処理前に容易に識別できます。編集済のデータをさらに処理することも可能です。

ヒント： 行を選択した際、[Ctrl] キーを押しながら [c] キーを押してクリップボードにコピーできます。その後、Excel などの他の Windows アプリケーションで、オープンしているファイルに [Ctrl] キーと [v] キーを使用してデータを貼り付けられます。

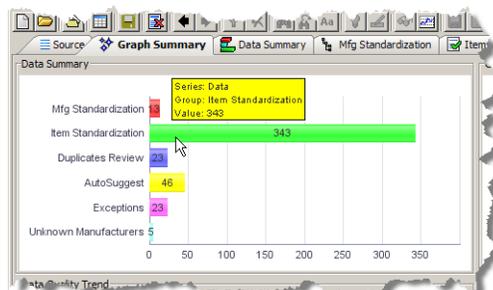
「Graph Summary」タブ

「Graph Summary」タブは、DSA の出力ステップで、「Summary Data for Graphing」が定義されている DGS 出力タイプがある場合のみ、タブのリストに表示されます。DSA によっては、グラフの数が多すぎて Governance Studio で 1 ページに収まらない場合があります。

表示するグラフの数を定義できます (2-2 ページの「Governance Studio の DSA の構成」を参照)。すべてのグラフが表示されるまで、残りのグラフについて「Graph Summary」タブが作成されます。

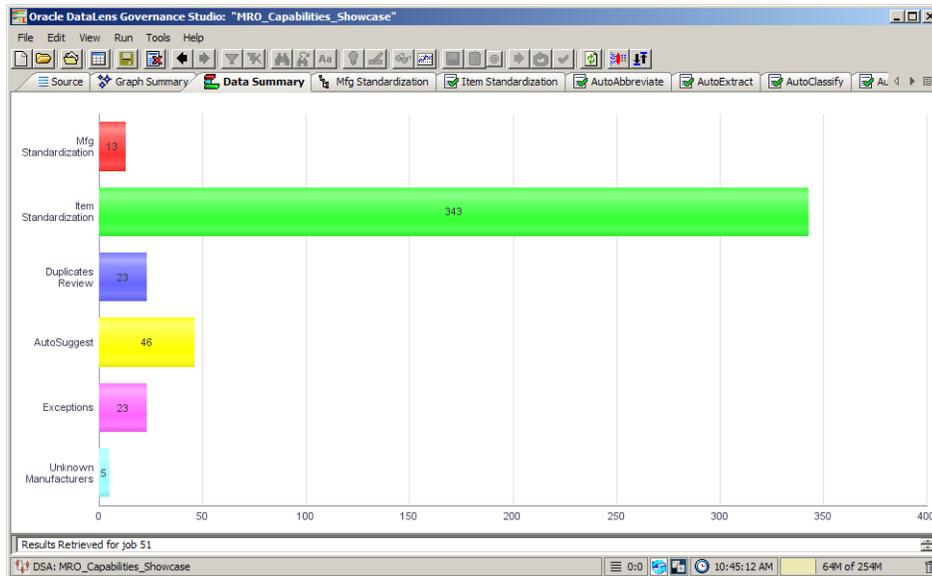


このタブのバーにカーソルを合わせると、そのバーに表示されている情報がツールチップで示されます。グラフ内のバーをダブルクリックすると、グラフ化されたデータに対応する出力タブがアクティブになります (そのグラフ・データに関連付けられたタブがある場合)。



「Data Summary」 タブ

「Data Summary」タブには、それぞれの出力データ・タブに含まれている行数の棒グラフが表示されます。「Graph Summary」タブと異なり、「Data Summary」タブは1つしかありません。オプションを無効にした場合を除き、このタブはデフォルトで表示されます（2-2 ページの「Governance Studio の DSA の構成」を参照）。「Data Summary」タブにより、各出力タブの表にあるデータの行数が一目でわかります。たとえば、1つの出力タブ表に例外データが含まれており、他の出力ステップと比較してその数が非常に大きい場合、この問題を容易に識別できます。グラフのバーをダブルクリックすると、バーの左に示されている出力タブ表が即時アクティブになります。



5

DSA 出カタブ

この章では、データのレビューに使用できる、DSA によって作成される出カタブの使用方法を説明します。

「Review」、「Approve」および「Route」出力タブ

「Review」、「Approve」および「Route」出力タブは、緑色のチェック・マーク・アイコンで示されます。これらのタイプのタブには出力データの表が含まれ、出力タイプが「Review」、「Approve」および「Route」である DSA 出力ステップに対応します。これらのタブのデータを選択し、ファイルに出力したり、編集したり、他のユーザーに電子メールで送信したり、または同期ジョブの入力として実行できます。次の図に、「Review」、「Approve」および「Route」出力タブの例を示します。

Applied	Dup_Id	Batch Type	Type	Item Category
0/2	#925	CR	DUP	Medical_Gloves
0/2	#927	CR	DUP	Medical_Gloves
0/2	#928	CR	DUP	Medical_Gloves

出力タブの機能

次の各項では、出力タブの使用方法を説明します。

行の選択

次のいずれかの方法を使用して、さらに処理を実行する行を 1 行または複数行選択できます。

表のすべての行

[Ctrl] キーを押しながら [a] キーを押します。

連続していない行

[Ctrl] キーを押さえたまま、選択するそれぞれの行をクリックします。

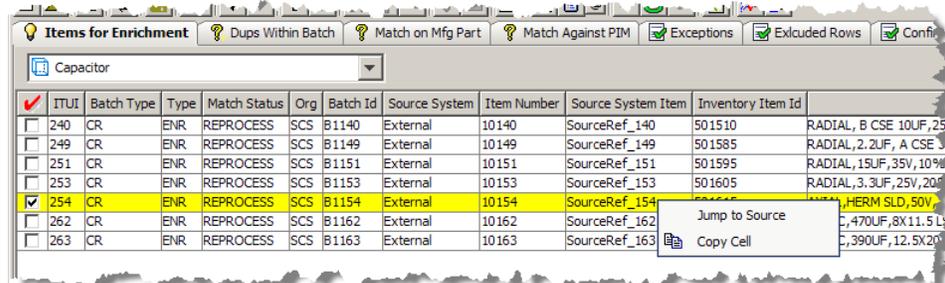
連続した行のグループ

[Shift] キーを押さえたまま、選択するグループの最初の行をクリックし、次に最後の行をクリックします。

ITUI	Batch Type	Org	Source System	Batch Id	Source System Item	Item Number	Inventory Item Id	Description
235	CR	SCS	External	B1135	SourceRef_135	10135	501485	X7R, 5 %, 16 Volts, .47 Uf, 0805, Tape And Reel
236	CR	SCS	External	B1136	SourceRef_136	10136	501490	X7R, 10 %, 50 Volts, .15 Uf, Molded, Bulk, Radial
239	CR	SCS	External	B1139	SourceRef_139	10139	501505	X7R, 5 %, 50 Volts, .015 Uf, 1206, Tape And Reel
244	CR	SCS	External	B1144	SourceRef_144	10144	501550	Z5U, 20 %, 50 Volts, 3.3 Uf, Conformal, Radial
245	CR	SCS	External	B1145	SourceRef_145	10145	501555	Np0, 5 %, 100 Volts, .0022 Uf, Molded, Bulk, Radial
247	CR	SCS	External	B1147	SourceRef_147	10147	501575	X7R, 10 %, 50 Volts, .015 Uf, Molded, Bulk, Radial
252	CR	SCS	External	B1152	SourceRef_152	10152	501600	X7R, 10 %, 100 Volts, .047 Uf, 0805
255	CR	SCS	External	B1155	SourceRef_155	10155	501625	X7R, 10 %, 630 Volts, .001 Uf, Tape And Reel
259	CR	SCS	External	B1159	SourceRef_159	10159	501650	XSR, 20 %, 10 Volts, 4.7 Uf, 1210, Tape And Reel

データのコピー

Governance Studio 表の任意の行を右クリックし、カーソルをあわせているセルのデータをクリップボードにコピーできます。クリップボードにコピーしたデータは、別のアプリケーションか、Governance Studio の別の出力タブ表に貼り付けられます。



タスク・ペインのコンテキスト依存メニューの詳細は、5-7 ページの「[上部ペインの機能](#)」を参照してください。

セルの内容の変更

セルが DSA 出力タブで読取り専用セルとして指定されていない場合、任意の出力タブ表でセルをダブルクリックすると、次のいずれかのアクションが可能になります。

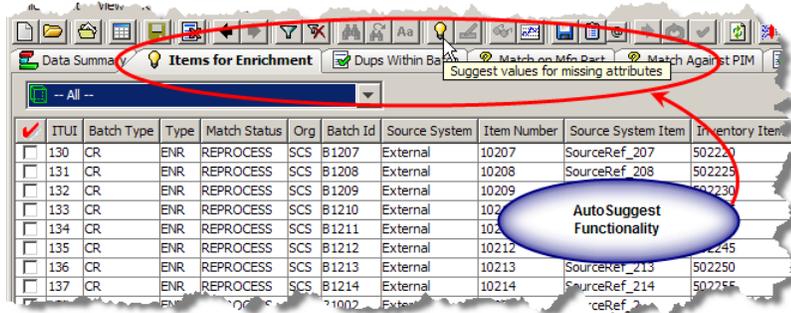
- セルを編集できます。テキスト挿入カーソルが表示され、セルの背景が白に変わり、セルにテキストを入力するか、テキストを変更できます。

注意： フィールドが編集可能かどうかは、Application Studio の DSA で構成されます。編集不可のフィールドを編集する場合、その出力ステップの「**Edit Value**」出力列に感嘆符を 2 つ (!!) 追加することにより、動作を変更できます。

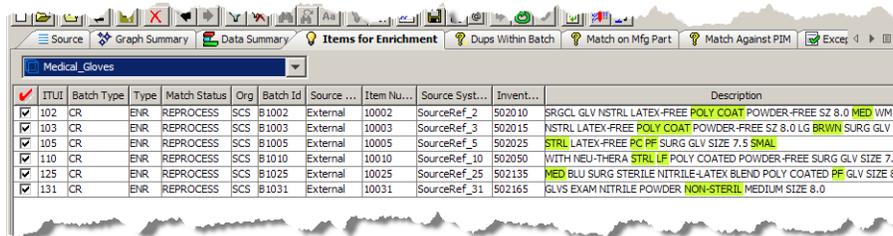
- リストが表示され、DSA で事前設定されているいずれかの値を選択できます。値 "<empty>" を使用すると、リストから選択された値を無効化（または NULL に）できます。
- AutoSuggest 表の場合、推奨が無効になり、色がピンク色に変更されます。再度ダブルクリックすると、推奨が再度有効になり、ハイライトが緑色に戻ります。使用する推奨と破棄する推奨を選択できます。詳細は、5-2 ページの「[「Review」、「Approve」 および 「Route」 出力タブ](#)」を参照してください。

「Review」、「Approve」および「Route」の AutoSuggest 出カタブ

AutoSuggest 出力のある「Review」、「Approve」および「Route」タブは、電球アイコンで示されます。これらのタブのデータは Governance Studio の AutoSuggest 機能にアクセスできます。この機能では、スペルミス、短縮形または不完全な文法のために欠落した属性を自動的に予測します。このタブが空でなく、欠落した属性の提案値が存在する場合、電球アイコンがアクティブです。推奨がない場合はこのボタンは非アクティブです（グレー表示されます）。次の図に、AutoSuggest 表で推奨ボタンが使用可能な例を示します。



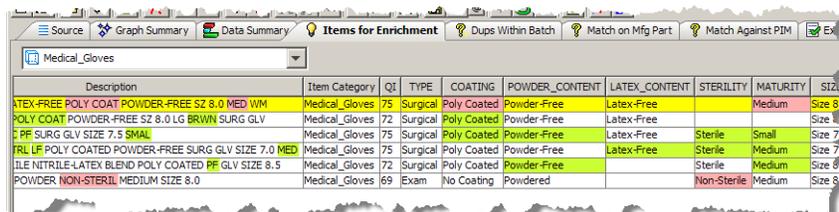
AutoSuggest 出カタブをクリックした後、DSA の対応する出力ステップで出力対象として指定されたデータの表が表示されます。推奨を表示するには、「AutoSuggest」電球ボタンをクリックするか、「Run」メニューから「AutoSuggest」を選択します。次の図に示されているように、推奨が緑色でハイライト表示されます。



AutoSuggest 機能

AutoSuggest 表では、データをさらに処理して編集、移動、コピーまたは推奨の受入れを容易にするために使用できる操作がいくつかあります。出力タブ表で使用できる通常の表機能に加え、AutoSuggest 表では、推奨の受入れまたは拒否をするために、拒否するセルをダブルクリックすることができます。

次の図では、「Maturity」列で提案されたセルをダブルクリックした結果を示しています。セルはピンク色でハイライト表示され、属性が拒否されたことを示しています。セルを受入れに戻すには、そのセルを再度ダブルクリックします。

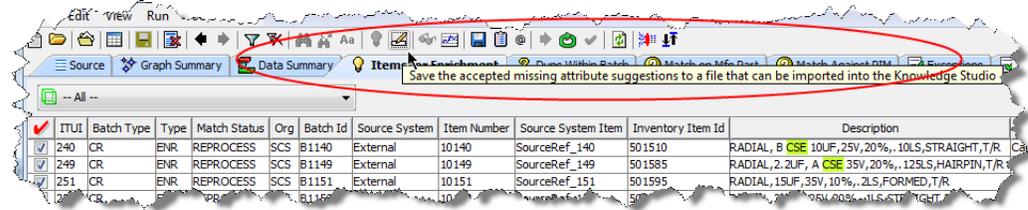


推奨を分析して、不要のものを拒否し、採用するものを保持した後、補完処理を実行する行を選択するには、行の左側のチェック・ボックスをクリックします。補完するすべての行を選択した後、「Re-run」ボタンをクリックして、選択した行をセカンダリ DSA プロセスに送信して処理を完了します。補完された属性や記述への追加によって、行の補完が必要なくなるまで QI が増加すると、選択された行は AutoSuggest タブから移動されます。

拡張の適用機能

この機能を使用して、データ・レンズのナレッジを追加または拡張できます。AutoSuggest 機能を使用してデータの一一致テキストをさらに識別した後、これらの一致内容をデータ・レンズに追加して、その後の処理で自動的に認識されるようになります。たとえば、「STRL」が「Sterile」の別の表記である場合、このバリエーション形式を追加することにより、データ・レンズのナレッジが増加され、それによって品質指標も向上します。

拡張の適用機能を使用すると、欠落している属性の推奨が作成され、その後、このナレッジが Excel ファイルに書き出されます。「Apply Augmentations」ボタン（鉛筆と紙が描かれている）は、AutoSuggest の使用後のみアクティブなり、そうでない場合は非アクティブです（グレー表示されます）。



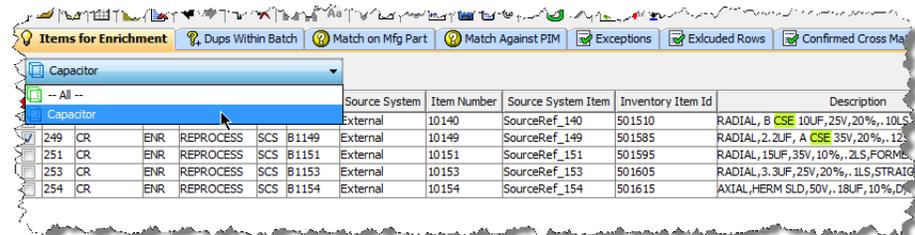
このナレッジをレビューおよび変更した後、Excel ファイル内のデータを Knowledge Studio のデータ・レンズにインポートできます。

注意： 行の処理を続行するために拡張の適用およびセカンダリ DSA の再実行の両方を使用する場合、拡張の適用を**最初**に実行する必要があります。

先に再実行を処理すると、行およびそこに含まれている拡張はタブから削除され、拡張を処理できなくなります。

データ・レンズを属性バリエーションで拡張するには、次の手順を実行します。

1. AutoSuggest 出カタブを選択します。
2. 「AutoSuggest」ボタンをクリックしてバリエーションを識別します。
3. 「All」または属性バリエーション・ナレッジを追加する単品の品目定義を選択します。単品の品目定義を選択した場合、その品目定義に関連するナレッジのみが作成されます。「All」を選択すると、推奨が存在するすべての品目定義についてナレッジが作成されます。



4. 追加するバリエーションが含まれている行を選択します。
5. 「Apply Augmentations」ボタンをクリックするか、「Run」メニューから「Apply Augmentations」を選択します。
6. Excel ファイルを保存するディレクトリに移動し、「Save」をクリックします。ファイルは、自動的に次の命名規則を使用して名前が決定されます。

Autosuggest-JobID-DataLensName-ItemDefinition.xls

7. Excel ファイルを開き、新しいナレッジをレビューおよび変更（必要な場合）します。

8. 前の手順で作成されたファイル名の一部として識別される、対応するデータ・レンズを Knowledge Studio でオープンします。
 9. 「File」メニューから、「Import Phrases and Terms」を選択します。
 10. AutoSuggest ファイルを検索して選択し、「Open」をクリックします。
- 影響を受けた属性をレビューします。拡張は階層ツリーに電球アイコンで示されます。

照合結果タブ

照合アプリケーションは、2つの DSA のセットで、事前指定済条件に一致するデータ・レコードの検索に使用します。照合プロセスは、データ・レンズ（またはデータ・レンズのセット）を元に構築され、品目を属性によって認識し、属性を重要度の高い順序にランク付けするために使用されます。

注意： 照合機能は、追加で購入してライセンスを取得する Enterprise DQ for Product のコンポーネントです。照合結果出力タブの表示が予期されるのに表示されない場合は、この機能がアクティブ化されていない可能性があります。詳細は、Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Oracle DataLens Server 管理者ガイドを参照してください。この追加コンポーネントを購入する場合は、Oracle 営業担当者にお問い合わせください。

照合プロセスの出力は DSA 出力ステップで使用されます。DSA で作成できる照合結果出力タイプには 2 種類あります。

- 単一選択の「Review」、「Approve」および「Route」
- 複数選択の「Review」、「Approve」および「Route」

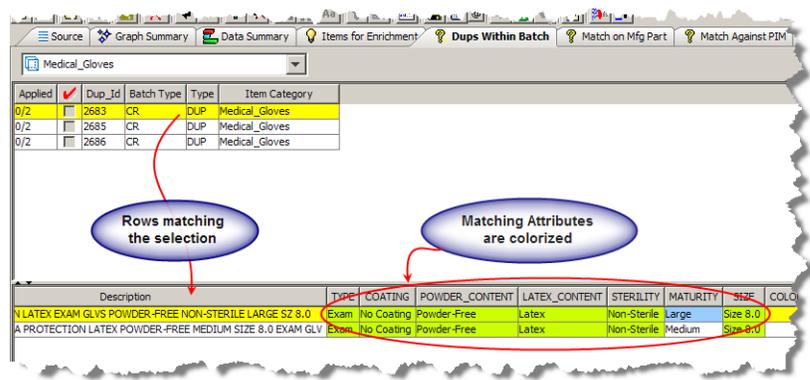
DSA で照合結果出力ステップを作成した場合、対応するタブが Governance Studio プロジェクトに表示されます。次の図に、サンプルの照合結果セットを含むプロジェクトを示します。

The screenshot shows the Oracle DataLens Governance Studio interface. The main window displays a table with match results for 'Medical_Gloves'. The table has columns for Applied, Dup_Id, Match_Id, Match Status, Source System Item, PIMOH Item, Org, Batch Id, inventory_item_id, Source System, Match Score, and Description. The first row shows a match with a score of 99 for 'GLVS SURG STERILE LATEX KASHMERE POWDER-FREE S'. The second row shows a match with a score of 98 for 'GLOVES SURGICAL RADIATION TEXTURED STERILE LATEX'.

Applied	Dup_Id	Match_Id	Match Status	Source System Item	PIMOH Item	Org	Batch Id	inventory_item_id	Source System	Match Score	Description
0/2	4925	175	CR	SourceRef_35	10035	SCS	B1035	502185	External	99	GLVS SURG STERILE LATEX KASHMERE POWDER-FREE S
0/2	4927	180	CR	SourceRef_43	10043	SCS	B1043	502285	External	98	GLOVES SURGICAL RADIATION TEXTURED STERILE LATEX

重複データが含まれている出力タブには、照合結果の親子ビューが表示されます。新規品目の導入事例では、新規品目を品目マスターの任意の既存品目と照合できます。インバウンド行が分類され、キー属性が抽出および標準化され、セマンティック・キーが作成されます。セマンティック・キーは、品目マスターに重複行が存在する場合にそれを検出します。入力行の一致が品目マスターで検出された場合、その行は重複候補の出力タブにルーティングされ、新規レコードの親子ビューが上部ペインに表示され、一致の候補が下部ペインに表示されます。

分割画面機能は、照合結果出力タブにのみ使用されます。次の図のように、行が上部ペインで選択されると、その行の対応する一致候補が下部ペインでハイライト表示されます。



Governance Studio の出力は色付けされており、照合に関与するキー属性を強調しています。さらに、その属性に対してトリガーされた照合ルールのタイプに基づいて色分けされています。属性は次のように色分けされています。

緑色の属性

親の行と一致し、品目固有の照合ルールによって必須と設定されたもの。

青色の属性

親の行と一致し、関与すると設定されたが、品目固有の照合ルールで必須ではないもの。

空白でハイライト表示なし

照合された行にはその属性に関する値が含まれていないため、属性は照合スコアに関与しなかったことを示します。

値が移入されているがハイライト表示なし

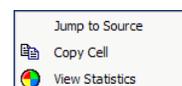
照合された行にその属性の値が含まれているが、その照合された行の属性値は親の行の属性値に一致しなかったことを示します。

上部ペインの機能

コンテキスト依存メニューはデータ・レコードを右クリックすると使用でき、次のオプションを使用できます。

Jump to Source

選択されたものと同じ出力データを使用して「Source」タブをアクティブ化します。たとえば、ID が出力に含まれていなかった場合に表示することができます。

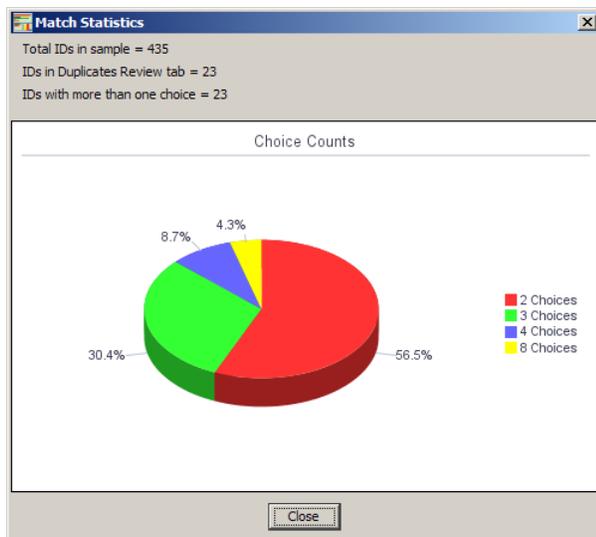


Copy Cell

セルをコピーして、データ・レンズまたは別のワークシートやファイルでのダウンストリーム処理に使用できます。

View Statistics

レコード当たりの選択肢の数を表示します。次の図のように、照合レコードのある行を分析したグラフを照合プロセスの結果から生成するためにこのオプションを使用します。

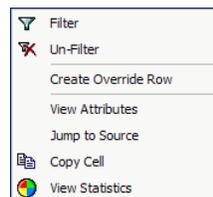


下部ペインの機能

上部ペインの機能と同様に、照合された行を右クリックして、次のコンテキスト依存メニュー・オプションを追加で 사용할 ことができます。

Filter

テキストまたはテキスト・パターンに基づいて、表示されているデータをフィルタリングできます。フィルタ操作は、現在選択中のタブのみに適用できます。「Filter」ダイアログに入力されたテキストに一致する行のみが表に表示されます。フィルタリングの詳細は、1-16 ページの「データのフィルタリング」を参照してください。



Un-Filter

選択中のタブに適用されたフィルタを削除し、すべてのデータを表示します。

Create Override Row

この機能については、「サバイバーシップ・プロセス」の項で詳細に説明します。

View Attributes

次の図に示すように、選択された行の属性を表形式で示します。

Attribute Name	Attribute Value
Dimension	1 - 1/4-7 X 4-1/4"
Type_drive_head_style	HEAVY HEXAGONAL
Diameter_thread	1 - 1/4-7
Material	
Plating	GALVANIZED
Standard	

Close

照合セットの作業

Governance Studio では、次のものに基づいて結果セットを解析し、照合結果タブに値を移入します。

- 照合セットと設定された DSA オプション、および
- 属性の命名、順序および構造の正確性。

定義済の使用事例に基づき、行をレビューして一致する行を判断します。次の項で例を示します。

見積の要求

見積を要求した各品目について 1 つの照合品目を選択すると、Governance Studio により、データ・レンズおよび他の業界関連条件の情報に基づいて、見積で使用するのに最適なレコードが識別されます。

次の図では、選択された **Dup_Id** は 6222 で、これについて見積可能な品目が品目マスターに 2 つ存在しています。見積要求プロセスを処理するには、システムが提供する情報およびその他の条件（仕入先またはマージンなど）に基づいて最適な一致を選択し、見積を続行する単独の行を選択します。この場合は、Governance Studio では **Dup_Id** 6222 の最適な見積可能品目をレコード 156 であると決定しました。

Applied	Dup_Id	Batch Type	Type	Item Category
0/2	6219	121	DUP	Medical_Gloves
0/2	6221	143	DUP	Medical_Gloves
0/2	6222	144	DUP	Medical_Gloves

Dup_Id	Match_Id	Match Status	Source System Item	PIMDH Item	Org	Batch Id	Inventory_Item_Id	Source System	Match Score	Description	TYPE	COATING	POWDER_C
6222	156		048180	SourceRef_6	CR	External	10006	SCS	99	Surgical	No Coating	Powder-Free	
6222	181		GL152290	SourceRef_44	CR	External	10044	SCS	98	Surgical	No Coating	Powder-Free	

見積のレコードを選択した後、前述のオプションを使用して、レコードをダウストリーム処理に移動できます。

機能的類似品の相互参照

2 番目によく使用される使用事例は、Web ベースの購買アプリケーションに使用される機能的類似品の相互参照です。この場合、Oracle DataLens Server によって品目マスターで検出された **Dup_Id** 6222 に対応するすべての機能的類似品の相互参照が作成されます。次の図の場合、**Match_Id** 156 および 181 がレコード 12 の 2 つの機能的類似品レコードとして選択されています。

Applied	Dup_Id	Batch Type	Type	Item Category
0/2	6219	121	DUP	Medical_Gloves
0/2	6221	143	DUP	Medical_Gloves
0/2	6222	144	DUP	Medical_Gloves

Dup_Id	Match_Id	Match Status	Source System Item	PIMDH Item	Org	Batch Id	Inventory_Item_Id	Source System	Match Score	Description	TYPE	COATING	POWDER_C
6222	156		048180	SourceRef_6	CR	External	10006	SCS	99	Surgical	No Coating	Powder-Free	
6222	181		GL152290	SourceRef_44	CR	External	10044	SCS	98	Surgical	No Coating	Powder-Free	

レコードを選択した後、前述のオプションを使用して、選択した行を処理できます。

Dup_Id/Match_Id 関係は相互参照として使用でき、さらに PIM などのダウストリーム処理によって相互参照の作成に使用できます。

サバイバーシップ・プロセス

この拡張オプションは、上書き行を作成することによって品目サバイバーシップ・プロセスを補助します。後にこれを操作してすべての重複候補を融合したレコードを作成できます。これは、システム統合プロセス中に使用されます。

1. 上書き行の作成を開始するには、まず重複タブを選択します。
2. 上部ペインで、マージする重複を選択し、隣のチェック・ボックスをクリックします。
3. 下部ペインで、マージする重複行を右クリックし、「**Create Override Row**」を選択します。

Description	TYPE	COATING	POWDER_CONTENT	LATEX_CONTENT	STERILITY	MATURITY	SIZE	COLOR	match_threshol
STERILE LATEX POWDER-FREE BRWN SIZE 7.0	Surgical	No Coating	Powder-Free	Latex	Sterile	Large	Size 7.0		252
RADIATION TEXTURED STERILE LATEX POWDER-FREE SIZE 7.0	Surgical	No Coating	Powder-Free	Latex	Sterile	Size 7.0			252
RADIATION TEXTURED STERILE LATEX POWDER-FREE SIZE 7.0	Surgical	No Coating	Powder-Free	Latex	Sterile	Size 7.0			252

選択された上書き行がオレンジ色でハイライト表示され、「Match Status」列に「MO」（手動上書き）と表示されます。上書き行を選択した後、上書きセルをコンテキスト依存メニューから設定するか、または上書き行の選択を削除できます。

次の例では、3行目が上書き行として選択され、1行目の「Maturity」列（属性）の内容が上書きセルとして選択されています。

Description	TYPE	COATING	POWDER_CONTENT	LATEX_CONTENT	STERILITY	MATURITY	SIZE	COLOR	match_t
STERILE LATEX POWDER-FREE BRWN SIZE 7.0	Surgical	No Coating	Powder-Free	Latex	Sterile	Small			252
RADIATION TEXTURED STERILE LATEX POWDER-FREE SIZE 7.0	Surgical	No Coating	Powder-Free	Latex	Sterile	Size 7.0			252
RADIATION TEXTURED STERILE LATEX POWDER-FREE SIZE 7.0	Surgical	No Coating	Powder-Free	Latex	Sterile	Size 7.0			252

結果の融合されたレコードには、size 属性を除く上書き行のすべての情報と、上書きセルから抽出された size 属性の情報が含まれます。融合レコードを作成する際、選択できる上書きセルの数には制限がありません。複合レコードのルールが作成された後、行が選択されます。

Description	TYPE	COATING	POWDER_CONTENT	LATEX_CONTENT	STERILITY	MATURITY	SIZE	COLOR	match
STERILE LATEX POWDER-FREE BRWN SIZE 7.0	Surgical	No Coating	Powder-Free	Latex	Sterile	Small	Size 7.0		252
RADIATION TEXTURED STERILE LATEX POWDER-FREE SIZE 7.0	Surgical	No Coating	Powder-Free	Latex	Sterile	Size 7.0			252
RADIATION TEXTURED STERILE LATEX POWDER-FREE SIZE 7.0	Surgical	No Coating	Powder-Free	Latex	Sterile	Small	Size 7.0		252

すべての追加オプションにより、融合レコードについて新規行が作成され、照合後の「Match Status」フィールドに「MO」（手動上書き）のタグが付加されます。これにより、ダウンストリームのサバイバーシップ・プロセスに、この行が上書きであり、融合レコード情報が含まれていることが通知されます。

ヒント： 正規表現を使用してデータをフィルタリングし、データのサブセットの作業と、上書き行として使用する行の検索を容易にできます。たとえば、データに省略記号 (...) が含まれている場合、検索するテキストとともにこれを正規表現の一部として使用して、データをフィルタリングできます (...abc など)。フィルタリングされた結果は、その条件に合致する行のみ返します。その結果、セット全体のかわりに、フィルタリングされたデータの選択済行のみが処理されるため、上書き行を容易に作成できます。データのセットから上書き行を削除するには、まずフィルタを削除する必要があります。フィルタリングの詳細は、1-16 ページの「データのフィルタリング」を参照してください。

Trend Analysis

傾向分析は、特定の出力ステップについて今までに実行した様々なジョブ実行の出力データ行数を表示する Governance Studio の機能です。この機能を使用するには、任意のタブで「**Trend Analysis**」 ボタンをクリックするか、「**View**」メニューから「**Show Trend**」を選択します。



グラフのビューを、選択された出力タブで「**Graph Type**」オプションを使用して割合または行数に切り替えることができます。

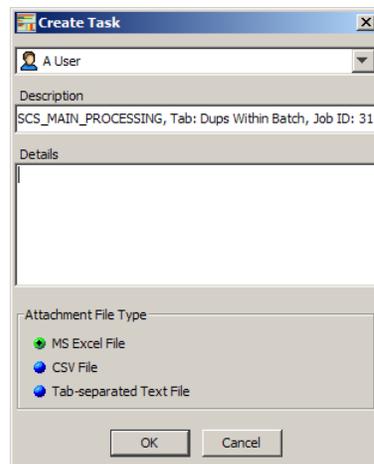
この機能はすべてのタブで使用できますが、傾向データが存在しない場合は、そのことを通知するメッセージが表示されます。

Create Task from Checked Rows

1行または複数の行を選択して、別のユーザーがデータ・レンズを更新できるようにタスクを作成できます。この機能はすべての出力タブで使用できます。

1. 「**Run**」メニューから、「**Create Task from Checked Rows**」を選択します。

注意： 出力タブが分割画面である場合、詳細および選択済の行の合計の両方を含む行の合計数を使用するかどうか、選択する必要があります。



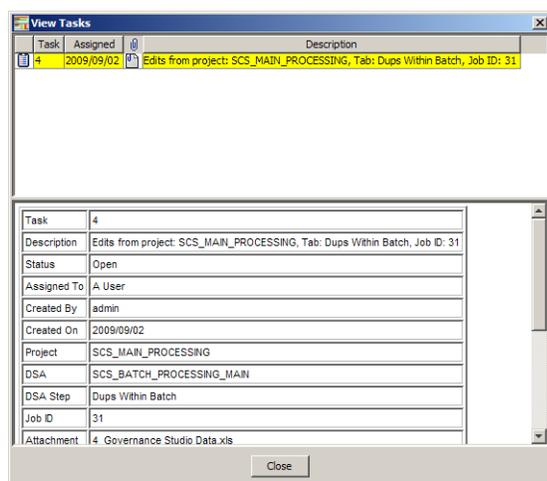
2. このタスクを割り当てるユーザーを選択します。
3. 必要であれば、自動的に移入された「**Description**」フィールドを編集します。移入される内容は、**DSA** 名、タスクの作成元である出力タブ、およびタスクの一意のジョブ ID です（ただしこれは推奨されていません）。
4. タスクを完了するために必要なすべての手順を「**Details**」フィールドに追加します。
5. オプションを使用して、タスクに添付する、選択内容を含めるファイルのタイプを選択します。
6. 「**OK**」をクリックします。

タスクが作成され、そのタスクの詳細が記載された電子メールが割り当てたユーザーに送信されます。添付ファイルは、割り当てられたユーザーが「**View My Tasks**」項の説明に従ってダウンロードできます。

View My Tasks

この機能で使用するよう割り当てられたタスクがあるかどうかを確認できます。

「**View**」メニューから、「**View My Tasks**」を選択します。



上部ペインにすべての割り当てタスクが表示され、下部ペインには、選択したタスクの詳細が表示されます。

注意： 下部ペインに表示されるフィールドは編集可能ですが、変更内容は保存されません。

上部ペインのコンテキスト依存メニューは、添付アイコンを右クリックするとアクティブ化され、次のように使用されます。

Change Task Status

5-13 ページの「[Changing the Task Status](#)」を参照してください。

	Change Task Status	s
	Download Attachments	d
	Create Task	c

Download Attachments

タスクの作成時に保存されたファイルをダウンロードして、タスクの完了に使用できます。ファイルの保存先ディレクトリを選択するための、ファイルの保存ダイアログが表示されます。

Create Tasks

5-13 ページの「[Creating a Task](#)」を参照してください。

Changing the Task Status

このオプションを選択すると、タスクのステータスを変更したり、タスクを他のユーザーに再割当てできます。

1. 新しいステータスまたはタスクを再割当てするユーザー（あるいはその両方）をリストから選択します。

ヒント： このタスクのレビュー担当者が未定のため後で適切な担当者を割り当てる場合は、「Unassigned Tasks」ユーザーを使用できます。

2. 将来の参考のために、変更を行った理由、または、タスクの新しい担当者への通知として、担当者を選択された理由を、コメントで入力します。
3. 「OK」をクリックします。

Creating a Task

このオプションを選択すると、完全に新しいレビュー・タスクを作成できます。

1. このタスクを完了するユーザーを選択します。
2. 変更する DSA および DSA ステップを選択します。
3. 変更を適用するデータ・レンズを選択します。
4. タスクの実行方法に関する説明および特別な指示を入力します。

5. 他に添付するデータ・ファイルまたは情報がある場合は、「**Add Attachment**」をクリックし、ファイルを検索して「**OK**」をクリックします。

すべての必要なファイルが添付されるまで、この手順を繰り返します。

6. 「**OK**」をクリックします。

タスクが作成され、そのタスクの詳細が記載された電子メールが割り当てたユーザーに送信されます。

クライアント・ソフトウェアのインストール

Enterprise DQ for Product では、クライアント・デスクトップのソフトウェアの初期インストールおよび現行バージョンの保守に、Java Web Start を使用します。このプロセスでは、接続を開始し、ソフトウェアをダウンロードするために Oracle DataLens Server にアクセスする必要があります。

Enterprise DQ for Product クライアント・アプリケーションは、次のように Oracle DataLens Server のインストール・ページを表示し、Java Web Start を使用して、ダウンロードおよびインストールします。

1. Java SE Runtime Environment (JRE) 6 Update 21 がインストールされていることを確認してください。JRE のダウンロードとインストール手順については、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/downloads/index.html>

2. Microsoft Internet Explorer を起動します。

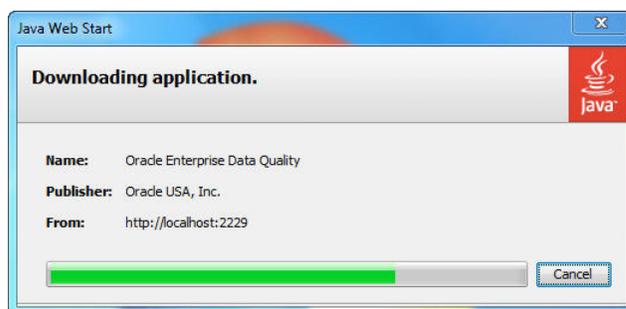
3. 次の URL に移動して、接続を開始し、クライアント・ソフトウェアをダウンロードします。

`http://server:2229/datalens/datalens`

`server` は Oracle DataLens Server のホスト名です。

注意： アプリケーション・サーバーに 2229 以外のポート番号が設定されている場合、クライアント・アプリケーションをダウンロードするために Oracle DataLens Server に接続する際に次の URL でそのポート番号を使用する必要があります。

アプリケーションのダウンロードおよび検証が開始されます。



注意：「File Download」メッセージで、ファイルがプログラムに関連付けられていないと表示された場合、サポートされている JRE がインストールされていません。「Cancel」をクリックしてステップ 1 に戻ります。

検証が完了すると、インストールが開始されます。Enterprise DQ for Product ファイルは信頼できるソースによってデジタル署名されているため、次のセキュリティ警告が表示されます。



ヒント： このセキュリティ・ダイアログが今後表示されないようにするには、「Always trust content from this publisher」チェック・ボックスを選択します。

4. 「Run」をクリックしてインストールを完了します。

Oracle Enterprise Data Quality for Product Data のログイン・ダイアログが表示されます。

